

早稻田學報

大正十一年 第三百廿二號 十月十日發行 十一月十日發行

目次

共に考ふべき圖書館

意見

イリノイ大學にて堤秀夫

校報

明治天皇御集下賜——維持員會——新學期事務開始——新學期開校——高等學院新學期開講——教職員異動

校友會報

幹事會——幹事常務委員聯合會——中津校友會設立——稻苗會創立——宮城縣校友大會——島根縣支部因幡國校友學生懇親會——鳥取縣東伯郡校友奮勵——第七回吳校友會

面影

東京朝日新聞學藝部主任 名倉開一氏

校友動靜

松本教授の消息——江部淳夫氏の榮轉——奈良靜馬氏の消息——業務異動——住所異動——改姓名——訃報

學會々合

早稻田教育會創設——構造會々合

學生記事

學生の壯舉——鳥取縣に於ける學生の活動——歸省學生巡回文化講演——高等學院庭球部の榮譽

雜錄

夏季宣傳委員に謝辭——平沼理事の快方——松平理事教育評議會委員となる——河原政太郎氏の留學——松本教授の留學期間延長——大隅助教授の象囀——今教授の渡鮮——西本忠一氏の永眠——本大學出版部附屬代理部の創設——同代理部創設披露

記念事業記事

本部報告の部——地方報告の部——故大隈總長記念事業資金申込芳名

大正十一年 (第一次) 本會維持費贖出者名報告

東京牛込

早稻田大學校友會

電話番三〇〇五〇番

東京八八九六番 替貯金口座

意見

共に考ふべき圖書館

イリノイ大學にて

堤 秀 夫

一、設備と館内の気分

昨年末田中理事が當アーバナ市を訪問された時、シカゴ市から同伴した私は、同理事から新圖書館の起工に關して種々承り、又お話しもした。その時私は「實驗室は我々の生命で長い間不便を感じて居つたのですが圖書館の改造はそれ以上の急務であると思ふ」として改造の言葉に一段語氣を強めて置いたのであつた。もうその圖書館も工事進捗して居る事であらうから、茲許で新圖書館に對する希望を述べることにする。

建築設備に關しては佐藤博士の設計であるから萬々遺憾のないことと思ふ。安部先生の言葉の様に「金のかけ方が違ふのであるから、米國圖書館は到底吾が圖書館の参考にはならぬ」にしてもせめてその理想だけは酌み得て居ること、信ずる。然し圖書館の生命は建築ばかりではない。建築などは寧ろ末葉の枝である。勿論蔵書部だけで圖書館の價値を定むるのも亦危い事である。若しそれ蔵書部が多い爲に圖書館と云ひ得ら

るとすれば蔵書家は之れを學者と云ひ得よう。かう考へて見ると日本に眞の圖書館はあるであらうかと疑はしくなる。私は米國に來てから諸方の學校を巡覽して來たが、格別驚く程のものはない。大體に於てその設備が日本のそれと比べて單位の違ふことは事實であるがこれ等は皆然あるべしと豫想したもので、時々却て不備なものを不審した位であつた。然し一旦圖書館に入つて見ると驚いた。第一開放的なのに、第二人を信ずるの大膽さに、第三館員の奉公の精神に、第四科學的整理の裡に私は初めて桑港に着た翌々日、スタンフォード大學を訪問し直ちに圖書館に入つて感心の餘り、遂三時間を過して下宿探がしを失念したことがある。これと同じ事が徳永博士によつて繰返された。同氏が倉田氏外二人とス大學を訪問した時、案内したのは私であつたが、足一度圖書館に入つた時先生、机にある、自分の専門の書物を讀み出して中々動かない。案内の小生も之れには閉口して、外の三人

と共に他方面を見物し二時間位後に歸つて來たが多くの男女學生の中に尙ほ讀み耽つて居る。爲に汽車の間も外して了ふた、暇潰しに無斷でその背後から學者らしい態度を紀念に撮つた事がある。その寫眞は私の手許に大事に保存してある、孰れ歸朝の土産にする考。こうした氣持は博士の學者らしい性質にもよるが、一つは圖書館の氣分が遠、そうした逸話を残させる程に氣持のよいのによるの勿論である。嘗に設備の氣持のみではない、之れに與る館員の態度、材料の豊富等にあるのです。それで私は徳永氏に、若し必要であつたらその書物貳冊でも今夜桑港まで持歸つては如何です。或は圖書館に送らせましようか、一週間して郵便で返せば良いのですから。と云ふたら同氏もこれには意外であつたと見え辭された。一寸ここの氣持は日本では味はれぬ所である。人間を辨で量つて入場させたり、金網の中から、無我の佳境に讀み耽ける讀者を睨下したり、一つの書物を貸りるに二時間も要したりするのは日本の學生が何うして圖書館に親めよう米國の學生は僅か十分の休憩時間も圖書館で過し、この十分を有効に使ひ得るのであるから、日本の授業時間一週三十六時間よりも米國の最大十八時間制の方或は能率に於て遙かに上位を占めて居はせぬか。

學校附屬の圖書館は云ふまでもなく、孰れの公衆圖書館にでも入場自由貸出し自由で、假し徳永氏の様旅のものでも、又桑港バコアルトの如く三十哩も離れて居つても喜んで貸して呉れる。シカゴ市圖書館などは、借りた書物は圖書館まで返すのが遠い時には、近所の派出所に返せば良いと云ふ便宜を計つて居る。市内五十六ヶ所の斯の種の派出所からは、毎日自動車で本館まで運搬するのである。

時には一週間の期限に遅れることあり得るが、その時は圖書館から催促が來る、そして一日遅れる毎に幾仙かの罰金をとられる。書物の紛失することは何處も同じであるが、これに對して或館員は曰く「その人はその書物を讀み度い爲めに持出したのであるから、その目的の一部は達せられて居る」と答へた。之れは餘りに穿ち過ぎた答であるが、斯の態度で進む勇氣はやがて彼等の理想を現實し得ずには置くまいと思はれた日本の公衆設備の多くは、その取締りの爲めに本來の目的まで全然没却して居るに比ぶれば、たしかにその目的を捉へ理想に向つて努力して居る跡が窺はれる。

一、ボード大學以外にない書物、日本で言はば國寶にでもなり得る珍本を讀み度いと思へば、當地圖書館を通じて、之れを借り得るのである。又その必要部分に騰寫して送つて貰ふことも出来る。

之れを、私が先年東京大學に行つて、理學の或る雜誌の古い巻を讀むことを申込んだ時、紹介状なければ讀ませぬと言はれて遂、憤慨の餘り再び之れを訪づれることを中止した事があると比較して、如何に日本は學問に對して專制政を布て居るか判る。學問の民衆化と學者の墮落とを混合する人は遂、學校の圍りに高壁を巡らし、果ては民衆を威嚇するかの如き仁王門を以て學の象にするに至るのである。

私は、外國にある完備した圖書館の一つさえ日本にあつたら、留學生の多くは、外國へ來ずとも済むのでなからうかと思ふことが屢ある。多くの留學生、殊に一ヶ年間位で歸る者は語學の未熟の爲講義からは勿論得る所が少く、良教師、良設備がありながら之れを利用し得ず居る。只だ圖書館の完備が、偶々これ等のものを償ふて、相當の收穫あらせるのであらうと考へる。學校と圖書館との密接は殊に著しい傾向をもつて居る。先づ日本で言へば教授連は十年一日の如く古いノールを持參しては講義して居る爲め時代よりは少く

二、圖書館の利用と效果
米國の圖書館は又圖書館同志の書物の融通を盛に行つて、その利用の途を講じて居る。今假りに私が、ハ

とも二十年は遅れて居る。然るに米
國では毎月發表される研究が直ちに
教室で論議せられるまでに凡て *case*
case の材料をもち得る。圖書館の發
達の結果、日本の如くに講義本位で
なく、自習本位に傾き、科目によつ
ては一時間の講義に三時間の圖書館
仕事を課せられる。それ故工科以外
の課の多く大學一年に於て圖書館學
を學ばねばならぬ。如何にして圖書
館を利用すべきか、如何にすれば研
究を進むるに最も能率よきかを先づ
教へられる。

三、自由圖書館運動と

新たなる試み

雄辯學とか、寫眞學、アイスクリ
ーム學、荷造學、或は美容學、果は何
と愈々増して行く米國の學問化にも
呆れるが、圖書館學博士を有する當
イリノイ大學に圖書館學を講ずるの
は少しも不審はない。米國の圖書館
は凡て二年三年の圖書館學校を出た
もので經營されて居る。華盛頓に於
けるライブラリー、オブ、コングレ
スの如きは、六百二十名の多數の館員
に高いのは七千五百名からの俸給を
仕拂ふて居る。元來米國圖書館は一
八七六年までは私立、或は學校附屬
の圖書館のみで、今の日本それと大
差はなかつた。所が此の年に初めて
自由圖書館運動なるものが起り、圖
書館協會が起り「圖書館は學校教育
の缺陷を償ふ、より一般的な教育機

關で併も何人も利用し得らる、より
重要ある教育方式であるから彼れよ
り以上に之れに高税を拂ふべきであ
る」と宣傳し、學校税に對して圖書館
税なるものを各州に要求した。之の
要求は遂に、一方に於て富豪の寄附
となりカーネギーの圖書館系統な
るものが完成せられ、續いて、各圖
書館の連絡、圖書館員の養成、圖書
館學校の設立となつて、現在は十七
の圖書館學校と三十圖書館協會を見
るに至り着々その發展を告げつゝあ
る。

この圖書協會の一つの事業として

特筆すべきは圖書目録の統一である
それは米國何れの圖書館に行つても同
じ書物は全く同じ番號を附しあるこ
とである。例へば、科學であれば *Sci*
Sci の物理學は *Sci* 理論は *Sci* と云ふ具
合にして、今相對原律の書物を読み
度いと思へば *Sci* を探せば皆その内
に包まれる。之れは Dewey's Decim
Sci system と云はれて、今では全國
の圖書館が之れを採用して居る。之
れと同時に新しい圖書が發刊せられ
るならば、ライブラリー、オブ、コン
グレスで之れに對するカードを作つ
て、全米圖書館に配布するのである。
私は初め米國の圖書館のカードが活
版であるを見てそれ程多くのカード
を作つて置くのかと不審した。が全
く之の爲めである。最近米國の書
店にて新刊と共に之れのカードを附

して發賣するに至つた。従つて個人
の蒐集に於ても皆之の方式に倣ふに
至り、何處の圖書館に至つても直ち
に思ふ圖書棚に接近し思ふ書籍を得
るに五分の時間を要しないのであ
る。

昨年日本に於ても、圖書館會議を

開いた様に新聞で見たが、果して然
らば米の一八七六年時代を繰り返
して居る様で五十年の遅れであるが然
し喜しい傾向であると思ふ。同時に
之れに向つても是非共、日本書籍目
録の統一と、外國書に對して諸外國
の方式を熟考して採用せられんこと
を希望するものである。
米國圖書館の新傾向は館員の分業
制である。單に分業と云へば言弊は
あるが、部門の分擔である。大體の
部門は主圖書館、特殊圖書館で、こ
の他、參考圖書館、政府刊行物圖書
等がそれである。然し彼等は又その
部門部門に別れ、枝葉に分れて、そ
の分擔を全力を盡して守つて居る。
只だ單に書物の番人ではなく、學者
の研究に對する態度で凡てその方面
の材料を蒐めて居る。例へば、私は
今勞動問題に關して調べ度いと思ふ
なれば、圖書館に行つてその部の分
擔者に相談するのが最も捷徑。彼等
は必ず勞動の如何なる方面と云ふて
反問するに違ない。之れに對して勞
働會議に關するものと云へば、會議
の何の方面をと、再び反問される。

茲で發展、歴史とでも答へると、先
づ參考圖書館に導いて、其處にある
インデックスの一つ例へばウキルソ
ン會社發行の *Readers' Guide to*
Periodical Literatures と云ふのを示
して一九〇〇以後この部分の材料を
順に調べなさい、然らばその原本は
必要に応じて出してあげると云ふ。
その内にある同問題の題目の数だけ
でも一萬にも達するであらう。この
原本を讀むとすると中々大事業であ
る。私は米國へ來てから、圖書館書
庫に入つた時自分の智識の狭少に對
する一種の恐怖を感じるのが常であ
るが、之れと同様な感じが、茲許に
も起るのである。一つ一つ讀み進む
につれて、材料を探して行くと、彼
は、「それは茲許にある」とて時には
新聞の切抜きを持ち出し、或は「それ
はあれを見れば判る。」又それは茲
許へ手紙をやれば原本を呉れるから
手紙を書いてやらうなど、辛い所
を思ふ様に搔いて呉れるのみか時に
擦つたい位な事もある。

昨年大澤氏と同伴、セントルイス

市立圖書館を訪問した時、各圖書館
員は各その分擔に對する努力振りを
誇りやかに示して居つた。中に一婦
人館員は世界の繪はがきを集めて整
理して居るのがあつた。試みに日本
部の處を引き出して見たら、あるは
あるは、數千もあつたが、「如何で
す」との彼の言葉の内に少しの誇を

浮ばせて、取つて見せた一葉は古繪
はがきで、日本人佐々某に宛てた一
寸浪漫的な文句が書かれてあつた。
で、如何して之れを蒐めたかと尋ね
て見たれば、「友人の同情で、私が貰
つたものが大部分です」と、「若しあ
なにも古葉書があつたら送つて下さ
い」とその職務に忠實さに感心して
歸つて早速日本からの古いのを全部
そのまゝ、一纏にして送つて遣たら禮
狀が來た。之れは一例であるが、特
殊繪畫などの蒐集は中々盛。ライブ
ラリー、オブ、コングレスでは音譜の
保存数が九十一萬九千、寫眞数が四
十二萬四千と云ふに到つて一寸驚く
この寫眞の内最近に加へられた活動
寫眞フィルムが萬を超えて居るとの
事。

分業化の結果はその部門部門に對

して専門學者を要し、或は館員をし
てその方面に於ける最も卓越せる智
識を得さしめる必要を生じて來た。
そして各圖書館學校は、各専門家を
作る傾向を持つて來た、圖書館學校
の卒業者の最近の仕事は所謂公衆又
は學校等の圖書館員としての職以外
に、新に、官衙、社等の特殊研究の
材料蒐集役、即ち調査課の方面に一
生面を開拓しつゝある。シカゴ市に
市廳を訪問した人はそこに有名な圖
書館があることを記憶せられるであ
らうが、この圖書館は駄小説類の堆
積所ではない。ミニシバル、プロ

ブルムの凡ての方面に互る材料を集め世界の各所の参考品を歛めて、之れを整理し、吏員の参考とし、又市議員の要求に應じて何時なりとも之れを提供し得る様に備へてある。そして市會の新問題がある時館員は徹宵その材料を整理して問題の解決に便にして居る。鐵拳と口角だけが武器である日本議會は、この必要がなからうが、同時に設備がないから調べも出来ぬと云ふ口實もある。

日本の學者の多くは圖書館の不便の爲めに圖書館員のこの仕事の爲めに大事の一生を終つて了ふのを見て氣の毒に思ふ。日本で學者の仕事と考へられ事が外國では圖書館員がして居るのである。それで初めて學者は一步進んで創造も出来發見も出来る。例へば現代科學の如き棚牡丹的の發見のあり得ない限りは、今の日本に大發見の起らぬのも無理のない事ではなからうか。語學者が翻譯によつて一流の經濟學者と見做されたり、虎の巻の發見を恐れて、原本を隠匿する様ではまだまだ日本の學界は憐れである。

日本の書物に索引がなく、参考書を扱つて居るのなどは、此邊の消息を語つて居る。何處までが自分の説で、何處からは他の論であるかを明瞭にしたら、日本の書物で讀む價值のあるものは何程あらう。

四、母校の圖書館に望む

早稲田大學の圖書館も安部教授の言葉によれば廿萬に垂んとする藏書を有するとの事、せめて之れだけでも今少し有効に利用し得る様に。この期に臨んで是非改革し度いものである。大福帳式の事務や、科學の雜誌を講談世界など、同一視する様なことは速かに改めて貰ひ度い。そして懐手して時間潰しに讀書する輩に對する圖書館の時代から一躍して問題を持つて飛込む研究者への圖書館になり度い。それには學專門者をその各部に配して整理して貰ふか、館員をその特殊の部門の爲めに養成する必要がある。次の問題は大學圖書館として原本の蒐集とその索引の整理、雜誌の溯號それから書店で得られぬ、重要小冊子の蒐集等である。元來圖書館は書物を藏する所と云ふ觀念が日本人の頭にあつたのが違ひで、之れからは圖書館は、或る事柄の調査の材料と供給する所であると云ふ考で進み度い。それには圖書購入方を今迄の如く、書店の持ち來るものを待つ主義では不可。館員全部が自分の専門に對して世界の出版界に眼を曝らし、必要に應じて之れを講入し置くことである。一つの書物を買ふた時必ず一度その内容を讀みその内に引用しある書物又はそれに参照してある書物は他日必ず之れを讀んだ讀者に要求せられるに違ひない以上、之れを蒐集すると云ふ事などは

は最も大事な事である。茲にも又館員その人に待つ所が多い。そしてその館員がその専門に於て普通の學者以上に、智識を有する必要がある。今の早稲田の圖書館では各方面に之れを望むことは出来ぬから、少くとも専門學者の選んだ書物出版物は、如何なる努力を以ても集める考で居て貰ひたい。要するに死んだ材料と生きて居る材料との區別のつく館員が欲しい。中學の教科書の様なものに何十萬あつても學問の爲めには一文の價値もない。

圖書は藏して完からむよりは讀んで破り度い。私は十五年前に出版された或る有名な書物が一度も小刀を入れたことなく、早稲田の圖書館に藏せられてあるのを見て驚いた事がある。讀者が讀まなかつたのは借出し不便の爲めと恕されるが館員が目を通さなかつたなどは、心得違であると云はねばならぬ。勿論紛失する位は豫期せねばならぬ。個人の圖書館に就て考へれば只だ一度讀む否時には飾る爲に高價な書物を講ぶものがあるから、之れと比すれば公衆圖書館のものも一度讀まれば、それは失はれてもその使命は盡し得たものとしても差支はない筈である。

早稲田大學の如きは今少し圖書館と教室との間の連絡をとりたいたものである。今迄は之れが出来なかつたのは圖書館の不備によつた。米大學

の如く大學教育は七〇%は圖書館で與へられるのでなければならぬ。日本のは恐らく九〇%が教室で、一〇%位しか圖書館は利用されて居らないからう、これでは學生は慘めである。要するに圖書館は教育の上の一つの自重と、抱負を以て進んで貰ひ度いものである。私は前述の如く日頃日本に只一つでも良いから完全な圖書館が欲しいと思ふて居つた。今茲

許まで書いて來て初めてそれが早稲田圖書館の使命の様に感じ出した。兎に角日本の圖書館は歐洲のそれよりは儘かに五十年は遅れて居る。近い將來に世界圖書館會議も開かれて日本もその代表者を出す時が来る。それまでに一つ完成したいものだ。新圖書館をもつ早稲田は幸である職員も學生も此の好時季に當つて少しく圖書館の事を考へて見ようではないか。

校 報

明治天皇御集下賜

聖旨に基き、這般宮内大臣より、明治天皇御集一部(三卷)を下賜せられたるを以て、本大學に於ては、謹んでこれを拜受し、恩賜館内貴賓室に藏置すること、なれり。其の御沙汰書左の如し。

臨時編纂部編纂

明治天皇御集

壹部

右早稲田大學へ

天皇陛下

思召ヲ

以テ下賜相成候間 此段

申入候也

大正十一年八月二十九日

宮内大臣子爵 牧野伸顯

早稲田大學學長鹽澤昌貞殿

維持員會

九月十五日午後三時より 例規維持員會を開く。當日、大隈會長はじめ、鹽澤子、高田、坪内、市島、三枝、昆田、渡邊、増田、山田、上原、宮田、松山、坂本、金子、寺尾、中島、松平、田中、淺野、鹽澤の各維持員出席の上、左の諸件に就き、審議したり。

- 一、本大學創立四十年 記念式執行方法の件
- 一、留學生に關する件其の他

新學期事務開始

八月二十六日より新學期の事務を開始して、一般の便宜を圖りたるが本夏季は、特に故總長記念事業資金募集のため、學校これに衝れるに因り、事實上校外の内外に涉りて事務繼續せられたりき。

新學期開校

本大學の新學期は、九月十一日より高等學院の授業を開始したるが、當日、院

高等學院新學期開講

高等學院は、九月十一日より新學期の授業を開始したるが、當日、院長並に各主任より、新學期に臨むの覺悟に就き、訓示する所ありたり。

稟告校友各位

拜啓 各位益御清榮奉慶賀候 陳者來る十月二十日日本大學創立四十年記念日に相當候に就ては、盛典を擧げて祝意を表すべき筈に候處、尙ほ故總長の喪中にも有之に付、盛儀舉行の義は御遠慮申上げ、左記の順序に依り記念式を行ふこと、相定め申候以誌上得貴意申候 拜具

大正十一年十月十日

早稻田大學學長 鹽澤 昌貞

創立四十年記念式次第

一 十月二十日午前十時

小石川區音羽護國寺境内、故大隈總長御墓前に於て報告祭を行ふ

一 同日午後二時

中央校庭に於て記念式を擧げ、學長、名譽學長、基金管理委員長記念講演を爲す

教職員異動

佐竹 直重氏

右高等學院講師囑任

陸軍歩兵中佐 望月 信成氏

右高等學院講師囑任 體操擔任)

講師 大森 洪太氏

右都合に依り辭任せらる

校友會報

幹事會

九月二十日午後五時より永樂俱樂部に於て校友會幹事會を開き、秋季校友會大會開催の件、及び大正十一年度第二次維持費に關する件等に就き熟議したり。

幹事常務委員聯合會

幹事並に故總長記念事業東京方面常務委員聯合會は、九月六日及び同月二十日の二回に互り開設せられたるが、何れも、記念事業部後援會及び各地の狀況を聴取し、益東京方面

謹告

拜啓 各位益御清榮奉賀候、陳者、來る十月二十日の母校創立四十年記念日は、別項稟告の通り、故大隈總長喪中のため、内部の略式のみを執り行はれ候に就ては、更めて御案内申上げず候へ共成るべく御來會なし下され度、此段誌上を以て得貴意候

早稻田大學校友會幹事

校友各位

出席者

- 鹽澤 會長 名取常任幹事
- 長谷川 誠也 林 癸 末夫
- 徳永 重康 翁 立 旨
- 若林 成昭 影 近 清毅
- 上井 磯吉 前 田 多藏
- 崎山 刀太郎 佐 藤 正
- 鈴木浩之の各幹事

の實績を擧ぐるために、各區に校友會を設け、以て各官廳、新聞社、會社等の校友會と呼應して、一段の活動を爲すこと、なれり。

中津校友會設立

大分縣中津地方の校友會は、曩に故大隈總長薨去の報に接するや、哀悼會を度修して、痛惜の微衷を表したるが、今次、故總長の記念事業後援のため、組織的活動を爲し、以て聊か母校に盡す所あらんことを期し相會して、中津校友會なるものを發會したり。本會の會則及び會員左の如し。

中津校友會々則

第一章 總則

第一條 本會ハ早稻田大學中津校友會ト稱ス。第二條 本會ハ會員相互ノ親睦ヲ厚クシ會員ト母校トノ關係ヲ密接ニシ早稻田大學ノ事業ヲ援助スルモノトス。第三條 本會ノ事務所ヲ中津町一六一四番地山本武方ニ置ク。

第二章 會員

第四條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

一、中津町及字佐、築上、下毛三郡ノ在住者ノ早稻田大學卒業生(元東京專門學校卒業生ヲモ含ム)。二、早稻田大學推選校友タル者

第三章 會議

第五條 毎年壹回定時大會ヲ開キ事務會計ノ報告ヲ爲シ必要ノ事項ヲ議定ス。但シ必要ニ應ジ役員會ノ決議ヲ以テ臨時大會ヲ開クコトアルベシ此場合ニハ現ニ在學中ノ者ト雖モ出席スルコトヲ得

第四章 役員

第六條 本會ニ會長壹名、幹事五名ヲ置キ互選トシ任期ハ各二ケ年トス。但重任ヲ妨ケズ。第七條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理ス。第八條 幹事ハ左ノ事務ヲ處理ス。一、本會ノ諸會合ニ關スル件

二、母校及本會狀況ノ報告ニ關スル件。三、會計ニ關スル件。

第五章 會 計

第九條、會員ハ本會維持費トシテ毎年貳圓以上ノ曝出ヲナス可シ。第一〇條、本會ノ會計年度ハ毎年四月二日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス。第一一條、本會ハ其ノ基本金及維持費トシテ會員其ノ他ノ寄附ヲ受ケ。第一二條、維持費ニ剩餘ヲ生ジタルトキハ役員會ノ決議ヲ以テ之ヲ基本金ニ編入スルコトヲ得。

役員左ノ如シ

- 會長 中里 眞清
幹事 中津町 大江富太郎
幹事 村上郡 島田 博
幹事 宇佐郡 佐藤 千彌
中津町 山本 武
中津校友會人名
會長 會社員 中里 眞清
幹事 村上 長 大江富太郎
農 佐藤 千彌
島田 博
會社員 山本 武
教諭 木ノ下米司
同 石丸 春雄
同 矢頭 重治
銀行員 田中 重夫
會社員 愛知 丈一
坪根 一夫 武吉 猛夫
加來 駿一 島田 等

稲苗會創立

拜啓愈々御清祥奉大賀候、陳者當社在勸早稻田學園關係者間に於て從來相互親睦の趣旨に據り、時々會合等相催し居り候處、頃來逐次人員の増加を見るに至り候に就ては、一層組織的に團結すると共に母校との連絡を

密接ならしむるを至當と認め、向後貴會御指導の下に微力ながら活動致度同志相謀り今次故總長記念事業創始を期し、別紙規約に基き稲苗會設置仕候間御諒承相成度此段得貴意候也。

謹 告

拜啓 來る十月廿一日(土曜日)にして母校創立四十週年記念日の翌日(日)を期し午後五時上野精養軒に於て秋期校友大會を相開き、左記事項に關し御報告及御協議申上度候間御繰合御來會被成下度右御案内申上候
大正十一年十月十日
早稻田大學校友會 會長 鹽澤 昌 貞 敬具

校友各位

- 一、會務報告
二、推薦校友ノ件
三、規則改正ノ結果會計年度變更ニ基ク維持費徵收ニ關スル承認ノ件
追て會費金四圓に有之候間御含置被下度候
尙準備の都合有之候間御來否來る十月十八日迄に本會宛御一報被成下度御願候

稲苗會規約

第一條、本會ハ稲苗會ト稱ス。第二條、本會ハ猪苗代水力電氣株式會社在勸早稻田學園關係者ヲ以テ組織シ會員相互ノ親睦ヲ圖リ向上發展ニ資スルヲ以テ目的トス。第三條、本會ハ猪苗代水力電氣株式會社本

世話役ノ任期滿了後ト雖モ次期世話役就任迄ハ職務執行ノ責アルモノトス。第六條、世話役ハ其部ノ事務一切ヲ處理執行シ他部トノ交渉連絡ニ任スルモノトス。第七條、各部ハ會費トシテ月額金五拾錢ヲ其部會員ヨリ徵收スルモノトス。第八

條、本會ハ春秋二回總會ヲ開ク。但シ時宜ニ依リ其一ヲ各部會ニ變更シ又ハ開會セサル事ヲ得。緊急必要アルトキハ臨時總會ヲ開ク事ヲ得。第九條、第七條及第八條ノ規定ハ大支支部ニ限リ適宜任意ノ方法ニ據ル事ヲ得。第十條、本規約ハ總會ニ於ケル出席會員半數以上ノ同意ヲ經ルニアラサレハ變更スル事ヲ得ス。

會員氏名

- (ハ工手學校卒業)
× 井上 博 × 早川精太郎
× 加藤 好喜 横山 健
× 吉川 宣晴 × 村田 光敬
× 牛島 參郎 野崎 貞逸
久保 憲一 丸山 壽
藤田蓮一郎 × 古市 皓
小山 三郎 × 青戸 正臣
佐伯 信次 北爪 知二
水船 克之 × 久田 雅雄
杉原美佐雄 × 杉山 辰

宮城縣校友會大會

八月四日仙臺市に於ける母校學術講演會の終了するや市内東一ブラザ一軒に於て我校友學生聯合夏季大會を開く。恰も記念事業宣傳のため來縣中なる内ヶ崎、氏家、秋田、永井の四教授及南講師部築職員臨席さる。母校より斯く多數の賓客を迎へたるは稀有のことなれば、出席校友も亦學生諸君六十餘名に達し、當支部校友會も逐々隆昌に向ひたるを互に歡喜しつ、十二分の歡談に時の移るを忘る。席上上野幹事より記念事業に關し詳細報告併し一般の結束努力を

謀る處ありて稻垣幹事より諸教授來援の勞を謝し、永井教授之れに對し督勵的謝辭あり、夫れより例によりて都の西北を合唱す。時に十時を過ぎたり内ヶ崎教授之れより夜行にて長驅し川越町出演の途につかれむとす、席温まらざ、教授の勞苦に對し一同期せずして感激し、全員教授に尾して停車場に送る。かくして記念事業に對する全員の努力を誓ひつ、散會せり。

當日出席者左ノ如シ

- 内ヶ崎教授 武藏 光次 氏家 教授
谷井源一郎 永井 教授 泉 三郎
秋田 教授 佐藤 鐵郎 南 講師
佐藤恒四郎 部築 職員 糸原 高禮
田手評議員 佐野格之助 上野 清彌
向山 政恕 三浦 榮二 早坂 秀夫
稻垣泰之助 大泉 信守 居 孝
佐藤 三郎 杉本 俊博 加藤虎次郎
鈴木 和藏 高橋 靜夫 高橋文五郎
菊池 慶夫 野野 龍巳 小爾 久
新 綱太郎 石森 繁 藤田權九郎
淺見 公平 瀨川 芳雄 大塚小二郎
但木 成人 岡本新一郎 戸板 峻
貝沼船一郎 中村 信孝 針生 和吉
阿部 茂吉 田平 浩 北川他家雄
佐伯 滿雄 村上 三郎 白幡 美農
淺野 三郎 板橋 儀平 遠藤 敏行
鈴木 武夫 菊池儀一郎 大内 公
益川 次郎 伊藤 弘 木村小四郎
伊勢憲之助 大泉 卯藏 櫻井 東吉
金野 信 千田 清治 加藤保太郎
渡邊 芝榮

鳥取縣支部因幡國
校友會學生懇親會

早稻田大學校友會鳥取縣支部に於ては、七月二十五日午前十時より鳥取市浦五樓にて因幡一圓の校友と歸省學生の懇親會を催し出席校友十名學生二十名、別に當日來鳥せる母校前田幹事を加へて盛況、支部長柴田秀藏氏前田幹事及び歸省學生歡迎辭あり、尙ほ校友會鳥取縣支部成立并に大隈侯記念事業參加の報告をなし學生側山本鐵太郎君挨拶、前田幹事謝辭及び記念事業經過を述べ午饗開宴。右山本學生更に起つて感想を述べ、記念事業に就き學生一同に諮る所あり、左の決議をなす。

一、早稻田大學在學因幡國學生は母校今同の故大隈侯其記念事業に對し振て之を贊助し極力之が完成を期す
一、學生全體を委員とし學校より囑託の委員を常任委員とす
尙ほ學生として父兄親族より金約三千圓を募集すべきを約し終つて校友福田秀太郎氏在中の追懷談等あり一同歡談漸く夕刻散會した。

鳥取縣東伯郡校友會奮勵

鳥取縣東伯郡校友は、數年前同郡倉吉町校友故松本嘉知三氏の熱心なる主唱と献身的努力により、校友會を組織し、今日と雖も同氏の熱誠を忘れず、益々奮勵し、今初夏校友會鳥取縣支部組織せらる、や、卒先贊成全縣下校友と協同發展を期し、當

時來縣の高田名譽學長一行を特に倉吉町に迎へて講演會を開き、歡迎會をなし、同地校友菅原慶眞師を同志として松木氏の展墓を行ひ、墓前に報告してその靈を慰めたが、高田名譽學長は之を見て旅中多忙の時間をも割き共に展墓せられたれば、同郡校友一同學長の此の芳志に益々感激し現に大隈侯記念事業に就き大に奮勵してゐる。

第七回吳校友會

七月二十二日夜七時から吳市中通五丁目カフエブラジルに於て、當地校友學生聯合の盛んな會が催された廣島市からは幹事の門田康記氏が見えるし、其日に廣島へ着せられた母校記念事業部の木原健三、大久保清志の兩氏も同伴して來られたので會の氣勢を添へた。會長佐々木代議士の挨拶に續いて、大久保氏からの記念事業の話があり、それから校友も學生もいろいろの意見を述べて、その月末に行はるべき講演に對して應接すべき方法から、記念事業に對して寄附金を校友からばかりでなく、吳市の有志からも廣く募るべき方法を講究して、最後に校友から五名、學生から五名の委員を選んで一先づ宴を閉ぢ、記念の寫眞を影し、又嚴肅の裡に校歌を唱へて十時半に散會した。當日の列席者は

- 佐々木千秀 門田 康記 石川 福雄
- 獨原 義雄 野木 六郎 石田常太郎
- 羽木 貞雄 宇高 信一 田口 定男

- 濱部 浩 澤守源重 田中 周二
- 芦田 秀雄 服部松太郎 榎原 玄龍
- 山地竹十郎 松尾 次郎 原 喜一郎

- 高尾達吉(以上校友)外に學生十二名
- 大久保清志 木原 健三
- (以上母校より)

面影

東京朝日新聞 名倉聞一氏
學藝部主任

我が國の私學殊に吾が早稻田の如きは、官學其他の多くの先進を有つてゐるので、實業界や官界乃至政界に牢固なる基礎を築くには、將來不斷の奮闘に俟たねばならぬと言はれ



我が國の私學殊に吾が早稻田の如きは、官學其他の多くの先進を有つてゐるので、實業界や官界乃至政界に牢固なる基礎を築くには、將來不斷の奮闘に俟たねばならぬと言はれ

通された。堅實なる同社の根柢を語る建物の内にも、事務の進行、人の應酬より應接間の設備に至るまで、敏速と簡潔を旨とする所が窺はれる。

やがて氏は極めて快活な態度で、「何か御話をとの事ですが」とて、記者に促さる、がま、に、新聞方面に志す人々の素質や、特に留意すべき點などを伺へば

「母校等でも、最近は一般に語學に力を入れる傾向があるのは洵に結構であるが、記者を望む人は、特に會話を能くすることが肝要と思はれる。會話は、最初の探訪時代には用に立たぬ様ですが、二、三年も経つと、海外派遣の問題が起るもので、其の場合には、どうしても會話の出来るものがこの選に入り易き特典がある。性質話下手の人ならば、第二語學の方に力を入れれば、豊富なる資料を得て記者としての地歩を築くことも出来る。」

「また、記者たらんとする人は、特に氣分を快活に持ち、人に惡感を與へぬことや、人に接するに大膽で、沈着で、しかも判斷の機敏を要することなどを忘れてならぬ。殊に號外を出したり、印刷にかかつた記事を抜き代へる場合などは瞬間の中にも、記事の價值判斷を誤らぬ用意が要る。また記者は必

すしも文筆を善くするを要せぬけれども、人を相手のものなれば、人に會ふことが好きでなければならぬ、これは、學者等と大分異なる處で、名ある主筆の人でも、社説を書く前に大抵一、二の名士を叩いて、公正なる立論に努められるといふ。私は、記者を志望する人々は、大體か、る性格を有するや否やと云ふことを自ら省みて、第一歩を決するのが、適當であると思ふ。』

とて、尙ほ語を次いで、『新聞業は純營利事業でないから、記者は薄給に甘んぜねばならぬに拘はらず、社會的地位の高い人に接する機会が多い爲めに、經費も嵩み易いので、誘惑に依りて筆を挫けたり、心ならずも悪習に陥り易い故に、この點に留意して、堅固なる道德心を以つて、どこまでも記者としての氣品を保つことが緊要である。』

猶ほ、日本の新聞の現状及び、これに對する御意見をと言へば、『近來亞米利加等の影響を受けて、新聞が商業化して、我が新聞にもこの營利的傾向が強くなつて來た様であるが、これは新聞の財政的根據を鞏める上に閑却出來ぬとしても、これがために、新聞の教化的使命、即ち、民衆を適當に指導する意味に於て、論說記者に相當の人を得る點を等閑に附するの嫌

ありはせぬかと思はれる。』最後に氏が、擔任せらるる、學藝欄に就いて伺へば

『今の處或る一貫した主張を高唱する譯でもありませんが、大戦後の平和的傾向に従つて、武力主義に代る、文化主義を大體の指針として、時事の問題に觸れる方針ですが、また科學の民衆化の意味で新發明、新哲學、文藝上の新傾向などの紹介にも努めてゐます。』とて、繁劇の中にも拘はらず、興味

ある御話は盡きなかつたが、深き御懇情を謝して辭去することとした、因に氏は、明治四十一年文學科の出であるが、坪内博士の信任厚く、同博士の紹介で東京朝日の社會部に入り、大戦の終結と共に、大正八年七月同社より獨逸視察に特派されて、伯林に在ること約二個年、親しく獨逸戦後の研究に費し、後米國に廻りて昨年十一月歸朝の後、同社に學藝部を設けて其の主班となり今日に及ばれたる由。

校 友 動 靜

松本教授の消息

豫て本大學より歐洲に留學中の松本容吉教授より、最近前田幹事に宛通信ありたるが、其の一節に曰く

小生目下維納工科大學水力学の泰斗、ブダウ教授の非常なる歡迎を受け、同大學助教が保有する一切の便宜と、權利とを附與せられ水車研究中なり。

中歐諸國は經濟上の必要より水力利用熱旺盛にして、チェッコ、スラヴィアのカブラン教授、ブダベストのバニキ教授、殊にブダウ教授の新水車發明續出し何れも改良に改良を加へ、新水車の案出に腐心せり。松本教授はブダウ老教授の指導を受け暑中休暇中すらも研究室に在りて實驗の準備中なり。

江部淳夫氏の榮轉

校友江部淳夫氏は、多年教育の事に當り、日蓮宗大學第五高等學校教授たり、其の後文部省に入りて督學官となり、現に同省専門學務局第三課長の職にある人なるが、今回新設中の高知高等學校々長に任命せられたり。

奈良靜馬氏の消息

校友奈良靜馬氏は、豫てスタンフオード大學に於て史學研究中の處、先般、マスター・オブ・アーツの學位を得られたる旨、通報ありたり。

校 友 各 位

早稲田大學校友會幹事

拜啓 秋冷之候愈御清穆之段奉慶賀候陳者嚮に本會名簿編輯係より往復はがきを以て名簿編輯のための照會狀差上候處御多用中にも不拘御丁寧なる御返信に接し辱く奉深謝候然る所該はがき返信欄には單に職業とのみ致候爲め僅少年ら從來名簿面の記入例に慣はざる御方有之遺憾に被存候間、返信未發送の方並に既發の方にて左記事項中のこと記入洩の方は此際至急御一報被成下度願上候 敬具

左 記

- 一、御勸先銀行・會社各官衙名・御職掌等は可成精細に御記入相成度し
- 一、公職名も併記せられたし
- 一、校友にして早稲田學報等不着にて本會との音信不通の方聞及び候は、御一報相煩度し (住所不明會員實に參千有餘あり)
- 一、從來の名簿御覽の上住所不明の方にて各位に於て御存知の方あれば御一報相煩度し
- 一、本年度會員名簿は十二月上旬中に御手許に御届致豫定

業務異動

邦政專政

坪井秀恒(四〇)大友煙公司營業部長に就任(奉天十間房)
最上勇(七)宮城縣立高等女學校教諭となる
山田政好(七)家庭新聞社主筆となる(市内赤坂青山北町三ノ一〇)
和久田正虎(八)中央新聞社に入社
廣塚隆(八)具島商會社に勤務(下關市唐戸町)
川添政太郎(九)羅馬尼亞公使館勤務のため赴任
望月惣三郎(九)大阪海上火災保險株式會社に入社
椎木順一(一〇ノ二)山下汽船鐵業株式會社臺灣支店高雄出張所に轉勤

英政大政

伊集院勝吉(三七)門司十五銀行支店長となる
中村鶴(四三)大分縣大分郡長に就任
今泉寛橘(二)東京證券株式會社取締役となる
正山三郎(七)日華生命保險株式會社本社に入る
川上嵩(八)東京市電氣局經理課に轉勤
肥田景光(九)日本郵船株式會社本社詰となる
小谷精明(一〇ノ二)大阪毎日新聞

關門支局に入る

邦法專法

黑田保次(四四)株式會社帝國貯藏銀行代表取締役に就任
三上四郎(一〇)依田社金和製紙場專務取締役にとなる
邦行大法
佐藤雄能(二三)鐵道省事務官となる
永富貞平(二七)高松地方裁判所長に就任(高松市天神前一二居住)
大文
德本賢一(四一)福井縣立武生中學校へ轉任

大商

神宮新三郎(四五)朝鮮殖産銀行調査課に入る
海部二郎(五)株式會社山口銀行名古屋支店長代理となる
田中達雅(六)上海航路熊野丸事務長となる
大谷武次郎(六)日本郵船會社本社勤務
加東秋二郎(七)大連市滿鐵經理部會計課に入る
岩倉文祐(七)尾三銀行西尾支店長となる(愛知縣幡豆郡西尾町)
久保田德爾(七)古河鐵業株式會社若松支店に轉勤
大森義一(八)大下回漕店支配人となる(神戸市海岸通四ノ四一)
加納友三(八)日本郵船株式會社濱濱支店勤務

中岡實(八)株式會社美木屋商店專務取締役にとなる(市内本郷區動坂町一九九)
吉田義治(九)三菱商事株式會社に入る(市内麴町區八重洲町)
黑田行孝(九)帝國商業銀行に勤務
寺西輝義(一〇ノ二)中田印刷所に入る(大阪市南區安堂寺橋通四ノ五五)
米田雷藏(右同)明治電氣株式會社勤務
吉川康太郎(右同)東邦電力株式會社經理部勤務(名古屋市中區)

理工

大泉一(五)滿鐵本社社長室建築課勤務
木原優作(九)札幌電氣軌道株式會社技師となる
室肅(一〇ノ二)本大學研究科探礦冶金科在學
高師
澁田茂太(四〇)蓬萊生命保險相互會社九州支部長となる(福岡市中島町)
小松稻雄(四二)和歌山縣立和歌山高等女學校教諭となる
鈴木要次郎(六)新潟縣立高田中學校へ轉任
石田萬作(六)茨城縣立太田中學校に轉任
田所國輝(八)德島縣立德島中學校教諭となる
前田莊一(八)大阪市立天王寺商業學校に轉任

推薦

山下卓馬(八)鹿兒島市市會議長となる

住所異動

教職員

伊地知純正(教授)市外杉並村高圓寺驛前八八五
原島茂(講師)市内本郷區東片町一四五富國館内
二木保幾(講師)市内芝區愛宕町二ノ一四青木館内
難波理一郎(幹事)市内牛込矢來町三山里三六號(電番町四、一八〇)
岡田猛熊(一九)市外淀橋町柏木四三七
片岡志郎(二〇)富山市愛宕新町一六五四
花岡次郎(二三)長野市南縣町一朝岡鑑(三九)靜岡縣沼津町一七二
輪湖正由(四二)市外高田町雜司ヶ谷四八三
高野清八郎(四五)市内芝區白金三光町二七三
木村孫作(八)江原道壽珍郡近南面守山里
廣隆朝次郎(八)黃海道遼安郡大千面楠亭里官舎第二號
久保半三郎(九)府下荏原郡蒲田村北浦田七二五
古賀清美(九)福岡縣若松市山手通

五ノ九〇〇
戶谷泉也(九)大連滿鐵經理部用度課
大石源男(一〇)府下千駄ヶ谷町原宿三〇八
秋本健(一〇)市内麻布區市兵衛町二ノ二七
山本精三郎(一〇)名古屋市西區上長者町四ノ二沼波方
小川浩三(一〇ノ二)市外高田町大原一五四二
田中八穂(一〇ノ二)名古屋市東區駿河町二田島方

英政大政

杉浦謹次郎(三八)府下荏原郡駒澤村新町郊外住宅地内
服部喜八(三九)市外西巢鴨町宮仲二〇〇六
永井清志(三九)市内牛込區矢來町三萬殿九號
齋藤直紀(四三)新潟市南濱通一番町
北澤平藏(二)名古屋市中區千種町元古井一一
林繁一(二)市内牛込區余丁町五六
小澤一雄(三)府下西巢鴨町新田堀の内一五〇
新井鍊藏(四)市内牛込區市ヶ谷臺町九三
福田德太郎(六)濱濱市根岸柏葉三一ノ九吉村方
横井元一郎(六)兵庫縣武庫郡精道村打臺

柳瀬道雄(7)久留米市篠山町有馬
 伯爵邸氣付
 漆原雄象(7)大阪市西區鶴町三ノ
 四區一〇一號
 齋藤軍治(7)大阪毎日新聞社經濟
 部
 中村次郎(7)市内麻布區本村町三
 九
 佐藤鍊藏(8)麴町區有樂町一ノ三
 株式會社新潟鍊工場内
 黒田爲雄(9)金澤市池田町三番丁
 八
 小河敏實(9)市内牛込區原町一ノ
 七明來館
 紀伊一彦(9)府下戸塚町一〇五六
 高橋圓三郎方
 邦法專法
 安田次郎(二〇)福岡市藥院一〇五
 二
 河波荒次郎(二一)福岡市西中洲八
 四七
 宮下重利(三八)市内四谷區花園町
 八三
 富永長次(四〇)尼ヶ崎市宮崎市二
 ノ六五
 岩田作之助(四一)市内牛込區早稻
 田町四六
 小山晴一郎(四三)岡山市大供表町
 三二六
 大澤逸策(6)名古屋市西區北押切
 町上葎原二八
 篠原武之(6)府下瀧ノ川町西ヶ原
 九三六

稻森哲夫(6)府下荏原郡大井町篠
 谷六一七〇
 長谷川進(6)市内京橋區銀座四ノ
 四
 大河内勝之助(9)市内牛込區赤城
 下町二〇小林方
 齋藤富男(9)市内牛込區戸塚町三
 一
 小笠原鍊藏(10ノ二)市外下戸塚四
 四八
 邦行大法
 志摩三郎(三一)徳島市紙屋町三
 戸田常次(四〇)朝鮮咸北城津滿鐵
 社宅
 家本爲一(四三)岡山市内山下七七
 佐瀬家信(四五)千葉縣山武郡成東
 町字島二二四
 森健武雄(8)市内牛込區辨天町一
 伊藤千代吉方
 角田清廉(9)門司市外大里町南區
 大文
 水谷弓彦(二六)府下瀧野川町中里
 四〇一
 清水忠四郎(三八)福岡市小島馬場
 六
 秋谷節太郎(三九)小石川區大塚坂
 下町一一四
 橋戸信(三九)府下大井町庚申塚四
 七九三
 向井壽次郎(四〇)大分縣臼杵町鐵
 砲町
 上田秀道(四一)富山縣射水郡小杉
 町蓮王寺

大塚悦三(四五)愛媛縣北和郡三浦
 村一四九
 白鳥省吾(2)府下雜司ヶ谷龜原五
 九
 寬甲太郎(2)和歌山市新堀南町
 原久一郎(3)市外雜司ヶ谷四四九
 遠田亮(4)岐阜市本町六丁目
 丸川順助(5)神戸市平野楠谷町二
 七二
 大商
 松宮三郎(四一)市外千駄谷五三四
 三上芳直(四一)京都市河原町蛸藥
 師京都電燈株式會社内
 加藤德行(四二)市内青山南町六丁
 目三八
 渡邊嘉一(四五)山梨縣南都留郡瑞
 穂二二九
 細野光利(四五)府下南多摩郡鶴川
 村小野路
 石川盛(四五)北海道空知郡神威新
 歌志内炭礦事務所
 中野恭一郎(2)臺北市新起街三ノ
 九五
 山口清一(2)神奈川縣小田原町幸
 町一丁目
 田代亮(3)市内丸ノ内日本石油株
 式會社鑿井課
 石澤直茂(4)府下落合村上落合六
 三〇
 芝原寅之助(4)岡山縣都窪郡倉敷
 倉敷紡績工場
 熊谷梅太郎(5)市内本郷區駒込上
 富士前町五

田村竹三(5)市内小石川區雜司ヶ
 谷町一一九
 江田武彦(6)福岡縣門司市大里町
 近藤節(6)露領北樺太アレキサン
 ドロフスク三菱宿舍
 武田正夫(6)愛知縣寶飯郡國府町
 森
 松尾寛吾(8)市外中野町一五八三
 長谷川安兵衛(8)4117 Pine Str,
 Phila, U.S.A.
 唐澤石松(8)大阪市北區天神橋筋
 六ノ四五加島銀行北支店
 小林初三郎(8)市外西巢鴨町宮仲
 二五四三眞田方
 山中一夫(9)府下荏原郡平塚村戸
 越六四八
 中西喜三郎(9)福岡縣若松市中町
 二
 清水涓(9)大阪市東成郡鯉江町今
 福川北電氣製作所
 宮崎吉郷(9)市内四谷區大番町五
 六牧野方
 近藤爲材(9)名古屋市中區中ノ町
 二ノ一五
 安藤達(10)愛知縣東春日井郡瀬戸
 町明治銀行支店內
 鳴神靜一(10)大阪市東區大手通一
 ノ三
 小林榮夫(10ノ二)新潟縣中魚沼郡
 下船渡村大割野信越電力株式會社支
 部
 德光算正(10ノ二)市内牛込區鶴卷
 町靜進館

藤田三郎(10ノ二)市内牛込區喜久
 井町五六立田館内
 堀幸次(右同)府下平塚村戸越五五
 六
 松井虔(右同)大阪府豐能郡麻田古川
 梯止方
 理工
 片岡與七郎(3)長崎市飽之浦町一
 ノ三九
 小池正雄(3)札幌市北十條東三丁
 目
 熊田茂次(4)大阪府豐能郡櫻井谷
 村字内田
 水上新(4)府下荏原郡目黒村上目
 黒七五四
 北澤義男(5)千葉縣東葛飾郡野田
 町辨天神社宅
 竹田虎雄(7)府下荏原郡平塚村戸
 越七九二
 玉田勝一郎(7)大阪府豐能郡櫻井
 谷村野畑
 黒住恒太(8)奉天附屬地滿鐵工務
 事務所
 松井文雄(8)市内牛込區通寺町四
 三
 藤木謙次()市内神田區駿河臺南
 甲賀町八奈良方
 山口榮一(9)府内淺草區花川戸六
 十
 河原公之助(9)府下王子町王子岸
 九一四茂木方
 上田武敏(9)臺北市中央研究所酒
 課

荒井鹿三郎(9)市外大井町瀧王子
四五二一
下田進(10ノ二)市内四谷區軍筒町
三二

高師

國澤秀雄(三九)愛知縣一宮市中學
衣笠醇(四〇)市内芝區高輪南町養
真會

校內

田二一九

林愛次郎(4)愛媛縣新居郡大町村
西條農業學校

鹿兒島中學校

諏訪剛雄(5)府下豐多摩郡中野村
本郷五五

藤井壽雄(8)鹿兒島縣加治木町木
田町二〇五

學校

西山宇重郎(10)長野縣大町高等女
學校

本山貞民(10)熊本市藥園町六三
山池竹十郎(二九)市内麻布區北新
門前町一渡邊方

東則正(6)市内赤坂區水川町五二

改姓名

田中惠助(8專法)稻光と改姓
河原田貞太郎(四二大法)勝田と改

大西太助(5大商)當弘と改姓
木村定爾(6大商)菅と改姓
小泉邦治(6大商)市右衛門と改名
柳田浩平(6大商)間々田と改姓
私木農夫也(7大商)高津と改姓
池田廣治(8高師)高洲と改姓

明治二十年度邦語政治科得業
(大正十一年八月逝去)

宮崎八百吉氏

大正八年專門部政治經濟科得業
(大正十一年八月逝去)

阿部定太郎氏

明治二十七年邦語行政科得業
(大正十一年七月廿一日逝去)

關 守戶氏

明治四十一年度大學部政治經濟
科得業
(大正十一年八月廿五日逝去)

德永義太郎氏

明治四十年度大學部商科得業
(大正十一年八月廿八日逝去)

上野 秀麿氏

大正四年度大學部商科得業
(大正十一年八月三日逝去)

佐々木四郎氏

大正七年度大學部政治經濟科得
業
(大正十一年七月廿四日逝去)

井關 榮司氏

大正九年度大學部政治經濟科得
業

(大正十一年八月廿三日逝去)
久我右次郎氏
大正十一年度第二次大學部商科
得業
(大正十一年八月十五日逝去)
二木 三良氏
大正五年度大學部理工科探礦治

學會々々合

◎早稻田教育會創設

母校出身者にして現に教育方面に
従事する者決して少なからざるに拘
はらず、これが相互の氣脈を通ずる
機關なかりしを遺憾とし、今回早稻
田教育會なるものを創設して、一面
該校友と在校生との聯絡をも謀ると
俱に、我が教育界の發展に資せんと
すること、なれり。今、其の會則を
左に掲げて、同志の入會を切望す。
因に、同會は、高等師範部々長永井
一孝教授を會長に推し、河原彌一郎
氏幹事となりて、會務を處理する由。

早稻田教育會會則

- 第一條 本會ヲ早稻田教育會ト稱ス
- 第二條 本會ハ教育界ノ發展ヲ期シ會員
相互ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 會員ヲ別ツテ賛助會員及通常會
員トス
- 早稻田大學教職員ニシテ本會ノ趣
意ニ賛スルモノヲ賛助會員トシ、
早稻田大學出身者ニシテ教育事業

金科得業
(大正十一年八月二十日逝去)
中野 爭鹿氏
右諸氏の訃報に接し洵に哀悼の
情に堪へず、茲に謹みて弔意を
表す。
早稻田大學校友會

- 第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
顧問 大學學長
會長 高等師範部々長
副會長 評議員ノ互選ニ依ル
評議員 (五名)賛助會員ノ互
選ニ依ル
- 幹事 校友三名學生十二名
通常會員ノ互選ニ依
ル
- 第五條 會長ハ會務ヲ統率シ副會長ハ會
長ヲ補佐ス
評議員ハ會長ノ諮詢ニ應ヘ、幹事
ハ左ノ各部ニ分屬シテ會務ヲ掌映
ス
- 一、編輯部 (部長壹名、委員十
二名)
- 一、講演部 (同 十二名)
- 一、會計部 (同 四名)
- 第六條 通常會員ハ會費トシテ一ヶ月金
五拾錢宛チ前納スルモノトス
- 第七條 第二條ノ目的ヲ達セムガ爲メ左ノ
事業ヲ行フ

◎構造會々合

附則 本會會則ハ大正十一年九月一日
ヨリ實施ス
內藤建築科主任を顧問とせる早稻
田構造會は、同科卒業の在京生有志
にて組織され、毎週一回の會合を行
ひて建築構造方面の研究をなしつつ、
あり。構造は建築學の主體にして、
歐米諸國と氣候地質其他の諸關係を
異にせる我邦にては、特に研鑽すべ
き事項の多々なるべき今日、構造專
門の研究機關缺如せる如き觀あるを
遺憾とし、是れが研究に従ふことは
最も緊要事に屬し、同志の希望は益
々熱心を加ふるに至れり。近く九月
二十二日高田舎にての會合には親睦
會を兼ね會の發展に就て協議し尙大
隈侯紀念事業に構造會として應分の
寄附をなすべく申合せたり。(個人の
寄附とは關せず)

學生記事

◎學生の壯舉

本大學各部位に高等學院の學生は今夏季休業中、特に故大隈總長記念事業部の主催にかゝる講演會の開設及び該記念事業資金募集のために、近年になき炎暑をも厭はず、各地の校友を輔けて殆んど獸身の努力を爲し、夫れぞれ、郷里を中心として、國民的募集の意味に於て渺ならずる功果を収めたるが、其の中既に概況の報告に接したるもの左の如し。

◎鳥取縣に於ける學生の活動

我々鳥取縣歸省學生は、故大隈總長紀念事業寄附金募集に殆んど夏休を全部潰して之に當りました。夏の暑い眞盛りに日々巡回講演をして歩きました。至る處に於て早稻田精神の根本義を縣下に宣傳して歩きました。我々學生は固よりであるが、日々事務に多忙なる校友福田新聞記者の如きは我々と共に大に母校のためを氣を吐いて下さいました。

その他支部長を始め縣下至る處の校友の母校を思ふの熱烈さは非常なものでした。我々巡回講演者の宿舎の世話、會場の設備等現代の繁雜な多忙な世の中によくも之だけの世話が出来るか我々は感謝致しました。我々の此の舉と校友諸兄の熱烈なる

應援とは是非早稻田大學々報に記載して頂いて天下にその熱誠を示さんと欲するものであります。(學生委員)

◎歸省學生巡回文化講演

故大隈侯紀念事業運動の際因幡國歸省學生一同奮起する所あり、校友會鳥取縣支部後援の下に地方啓發の爲め巡回文化講演會を計畫し、八月一日より十一日に至る間同國內左記九ヶ所に開催

- 浦富海水浴場 岩井温泉 河原村 用ヶ瀬町 智頭町 若櫻町 鹿野町 青谷町 濱村温泉

尚ほ二十三日鳥取市遷喬尋常小學校に開催前後を通じて出演者左の如く母校精神を説いて、紀念事業の爲にも聲援に力め、大學擴張運動の意義を盡して地方の文化促進に資すると多大なるものあり。校友會柴田支部長同米原章三木島源義原通三安岡龜治庄司彦男其他の諸氏及び地方有志青谷町高田醫師其他の諸氏並に學生等隨所に應援盡力した。

- 出演者(校友) 福田直道 福田秀太郎 原田珍治(學生) 山本鐵太郎 三淺勇吉 瀧山一三 福原政治 田中榮治 濱本義信 足立憲一 萩原善彦 小倉徳藏 中尾徹夫 井上晃

◎高等學院庭球部の榮譽

我が高等學院の庭球部員は、東北大學々友會主催の全國學生陸上競技大會に於て、群を抜き遂に優勝旗を得たり。

雜錄

夏季宣傳委員に謝辭

九月九日午後一時、今夏の故大隈總長紀念事業資金公募を兼ねたる講演會に出張し、特に多大の盡力を拂はれたる委員數十名を本部應接室に會して、彌澤學長並に高田名譽學長より、厚く謝辭を述べられ、同委員諸氏が、該事業の達成上は勿論、校友と學生間の連絡を保つ上及び學校其のものの宣傳等に於て其の功績少なからざるを頌し、猶ほ、今後の助力を請はれたり。

平沼前學長の快方

今春來病褥にありて一時稍重能を傳へられし前學長平沼博士は、去る七月下旬大學病院退院後自宅にて養靜中なりしが、九月に入り漸次此方に向はれ、昨今庭園に出て好きな盆栽の手入等をせらるゝのみならず、毎日拂曉邸外に策を散せらるゝに至り。しかしながら、來客の引見は、今猶主治醫の注意によりて謝絶して居らる。

松平理事教育評議會委員となる

理事維持員伯爵松平賴壽氏は、九月十六日文部省所管の教育評議會委員仰付けられたり。

河原政太郎氏の留學

理工學部助教河原政太郎氏は、近く本大學留學生として歐米に渡り滿二ヶ年研學すること、なれり。

松本教授の留學期間延長

留學生教授松本容吉氏は、明大正十二年六月留學の任期満了の筈の處研究の都合に依り更に大正十三年三月まで延期して研學を進めらるゝに決す。

大隅助教の兼職

理工學部助教大隅菊次郎氏は、過般桐生高等工業學校講師に囑託せられたり。

今教授の渡鮮

教授今和二郎氏は、今回朝鮮總督府の依頼に依り、一ヶ月間の豫定を以て、朝鮮の住民家の建築を踏査研究せらるゝこととなる。

西本忠一氏の永眠

教務課事務校友西本忠一氏は、八月初旬より病に侵され、加療中の處九月三日稻田杏雲堂分院にて遂に逝去せられ、六日府下戸塚町法輪寺に於て葬儀處修せらる。當日、學長、田中理事、前田幹事其の他教職員數十名會葬し、學長幹事は弔辭を朗讀して痛惜の情を表したり。

◎本大學出版部附屬代理部の創設

今同本大學出版部に於て代理部を新設し、日用必需品を奉仕的に販賣することとなつた。從來も校外生の需要に應じて書籍其他の代理販賣をしてゐたのであるが、今同時代の要求に應じて一層規模を擴張し、特に代理部を分立させたのである。本大學前の廣場に在る新式の洋館二階建(寫真次號)がそれ其趣旨とする所は、本大學貳萬の校友、一萬の學生及び校外生出身者及び十數萬の現在校外生に對し又廣く一般社會に對し確實なる品物を出來得る限り廉價で供給するにある。所謂通信販賣であるが、世間多數の通信販賣とは信用上、非常の相違がある。本代理部は本大學出版部の經營であるから、基礎の鞏固や品物の確實は言ふ迄もなく、品物の仕入なども、本大學に對する信用に由り、外國の大工場から直接に仕入れる便宜がある。而も極度薄利であるから、良い品物を他店より廉價に供給出來る譯である。當事者としては、米國其他に在つて斯業に經驗深き鈴木富藏氏、及び顧問として伊東屋の前支配人野島常次郎氏があり、出版部の直接監理する所であるから、校友、學生諸君は十分に信頼し、大に此機關を利用せられんことを望む(本代理部第一次商品目錄は先月の學報)に挿入されたるが尚請求に應じ直ちに送呈する。

◎同代理部創設披露

出版部主催の同披露會は九月十六日夜、上野精養軒に開かれた。本大學長、理事、學部長、教授、幹事、事務主任、其他七十餘名出席。晚餐後出版部長高田博士、市島同部主幹は代理部創設の趣旨を述べ、時代に適切な一事業として本大學關係者の援助を希望せられ、之に對し、彌澤學長は此事業が社會奉仕の一端として意義あるとを説いて其創設を祝された。

大正十一年(第一次)本會維持費釀出者御氏名報告

金參園也

(納入順)

Table listing names and titles of donors, organized in columns. Includes names like 南 豐太, 中野傳三郎, 生方真一, etc., and their respective titles or family names.

國分	義一	西岡秀之助	渡	千城	小川	儀平	二階堂行善	大橋	誠一	谷	觀一	高羽	國良	田村佐一郎	戶野	秀夫	山崎	貞	菅野	健吉	堀江	賴憲	京極	文彦	高根	清				
田村	又六	寺尾	元彦	眞方	西村	象藏	大森	啓介	西條	田中	稔	田澤	康民	田口	武雄	兒島俊之助	小島九平治	村山	鼎藏	野田	弘	柳原	六郎	茂野	俊吉					
水谷	弓彦	幸尾	隆太郎	永井	岡西	介爾	西牧	季造	大濱	玉井	辰五郎	田中	福助	谷田川元保	秋本	健	寺部	治助	小出	光	安藤	誠一	富田	一郎	倭谷由之助					
永島	富三郎	松澤	禮三	喜多	西	義顯	岡田	孝吉	西村	田戸	茂八	高山	雅治	伊達	充邦	松尾保三郎	町田	輝	奧田	敦	上條	愛一	柏	通明	川添政太郎					
岡田	公輝	金子	健八	吉田	奧岡	喜藏	西谷	光彦	大串	武田	眞一	田中	保男	立花	寬篤	藤木	義幸	卯木國三郎	生島	勝一	石坂	宗道	藤井	眞雄	伊藤	開一				
鈴木	寮作	伊達	光美	竹内	西村	益夫	小澤	金一郎	新妻	高柳	郁二	高野	武志	竹中	賢惠	野口	喜一	今來	丈助	田中四郎左衛門	陳文	安	星野	有終	小倉	增藏				
種市	眞實	三谷	貞次郎	山本	大橋	爲次郎	西川	伸一	小野	唯根	伊與	谷	紀三郎	高宮	安夫	石井	禎司	矢野	丹二	三宅	淳平	石塚	綱茂	小川	芳明	藤井	信雄			
溝口	信	小山	胖	深江	西脇	六郎右衛門	岡田	復三郎	西野	谷	信次	武岡	元	田中	智治	淺岡	哲	松浦	誠一郎	蘭	達二	栗野	谷藏	高橋	義郎	三ツ井	照治			
八代	登	中澤	榮七郎	淵田	西尾	敬介	大澤	慶作	二宮	高木	武夫	谷口	利光	竹内	銳彦	金子	柳藏	河島	憲一	田邊	眞平	多田	鐵雄	池田	可夫	鈴木	長次郎			
福味	文郷	原	達平	平戸	岡崎	省三	大場	運次	大西	田部	信四郎	津田	左右吉	竹内	順三郎	小林	榮志吉	高橋	慶之助	八木	勳作	堀川	直吉	淺野	輝夫	岡崎	重藏			
稻毛	金七	林田	源太郎	中島	小田	切	孝	岡崎	鴻吉	谷田	清丸	中井	虎六郎	檀	廣樂	吉富	直純	小崎	金藏	大岡	胖	若川	直吉	淺野	輝夫	岡崎	重藏			
奧田	源兵衛	松山	二郎	宮武	足立	通治	小西	久太郎	足立	小澤	一雄	大橋	精一	小山	田	伊豆	富	中島	平三郎	平塚	周一郎	杉井	初太郎	笠井	寛太郎	岩田	健吉			
定金	右源二	丸島	敬	熊崎	武良	窪田	實	中川	重政	原田	實	中川	重政	加藤	美侖	松江	房次	小田	井柴	河野	憲	若海	林	公行	不破	元治	坂井	大輔		
原田	實	中川	重政	加藤	美侖	中村	吉藏	太田	稠夫	增田	綱	武田	豐四郎	多田	憲一	佐伯	唯一	廣田	繁太郎	五代	竹夫	若園	葵五	渡邊	代五郎	竹田	虎雄			
高知	尾誠吉	西川	善太郎	高須	鐵造	伊達	保美	桑原	重矩	川上	勇	本山	秀夫	新倉	孝造	松枝	保二	喜多	一重	近藤	晶	高松	常市	渡邊	寛一郎	高野	辰郎			
青柳	隆治	本間	久雄	鷺尾	浩	八橋	德治	長松	雪夫	緒方	啓一郎	吉田	嘉市郎	尾崎	義三郎	長尾	清一郎	大橋	弘之助	小林	節治	井戸	達夫	井上	平三郎	石原	修吉			
神	絢一	翁	支旨	高瀧	孝仁	大辻	英之助	馬場	哲哉	滿田	勝	大久保	寛	柴崎	市郎	江越	道正	中島	義應	菅原	三郎	磯野	菊一	今城	英一	飯坂	留雄			
大澤	定男	西崎	源太郎	大屋	亮平	島	富榮	及川	銀太郎	大澤	定男	西崎	源太郎	大屋	亮平	野口	爲義	室町	三郎	須藤	芳雄	大井	派太郎	森下	國雄	小笠原	長至			
萩島	遠	瀨沼	寛二	大山	眞	池上	周二	岡田	正太郎	竹田	茂	谷崎	善三郎	高木	季雄	澤本	與一	杉田	駿	丸見	六郎	遠藤	民夫	渡邊	陸郎	中西	雄洞			
大山	嘉藏	大竹	毅	大山	眞	阿野	孝吉	岡野	正男	河田	哲夫	竹本	曜二	室間	光次	大島	親貞	水谷	武右衛門	大島	正一	山口	成孝	長谷	敬止	矢崎	豹三			
小澤	慶龍	大塚	春芳	大古田	要三郎	尾家	藤藏	岡島	喜一	田村	基	田村	嘉一郎	田阪	眞雄	宮本	昌章	木口	重彦	立花	隆藏	富永	岩吉	菊地	清治	井上	松雄			
西村	鎮彦	岡本	駒之助	西村	眞次	田村	柳吉	高澤	濱之助	高木	光教	土肥	常溫	横田	正夫	篠田	信二	中西	近藏	石塚	市郎	久木	田周	藏	猪俣	勳	伊藤	榮三	石井	信二

記念事業記事

本部報告

其後の記念事業概況

故總長大隈侯爵記念事業は、その發表以來全国各地に亘り多大の反響と同情を喚起し、殊に本夏季に於ける講演に際し、各地校友學生並に篤志諸氏の熱烈なる斡旋運動と、出張教職員諸氏の努力とにより氣勢更に揚り各地よりの申込書陸續相踵いで本部に集まりつゝあり、其の數今や八十餘萬に上るの盛況を呈し來れるは深く本大學の光榮とし深く寄附者諸賢の御厚情を拜謝すると同時に、そのこゝに至れるは偏に前記諸氏の努力の賜なるを感謝する次第なり。今左にその後の各地に於ける狀況並に寄附者芳名及び金額を記録し重ねて深愴なる謝意を表す。

◎戸塚町の記念事業

後援會

本大學の所在地たる府下戸塚町有志諸氏より過般侯爵記念事業に盡力すべき申出ありたるを以て本事業部は大にこれを感謝し去る九月廿一日當事業部と同町名譽職諸氏の募集を乞ひ鹽澤學長より事業の趣意説明したるに募集諸氏一同大にこれを賛し直ちに戸塚町後援會を組織し十分

關口兼次郎氏 豐田俊助氏
大藏長次郎氏 荒井銀次郎氏
小泉萬五郎氏 鹽澤昌貞氏
阪本三郎氏 前田多藏氏



富山に於ける夏季宣傳委員

寄々本記念事業に盡力すべく協議中なりしが本大學にては九月廿三日午後一時本大學に有志諸氏の募集を乞ひ、記念事業資金募集に關し懇談せしに本業組合は獨立團體として極力奔走する旨の申合せありたり
出席者

- 菊水館 伊藤久次郎氏
- 山松館 山田七五三松氏
- 富城館 日吉臺德氏
- 榮進館 星田清次郎氏
- 望岳館 北澤義重氏

◎茨城縣に於ける宣傳

七月二十三日先發の伊藤(輔)職員水戸著、校友學生諸氏と打合せをした。學生諸氏は同職員の旅館の一室を運動本部とし、種々の準備に力めた。

◎七月二十五日(水戸) 早朝鹽澤學長來着、出迎人多數。伊藤職員と共に縣廳に守屋知事を訪問。本事業に關する後援の承諾を得、續いて内務部長、警察部長、其他に面會。次に各新聞社を訪問。正午知事より午餐に招待せらる。(講演會)午後一時縣公會堂に開催。開會の辭いばらき新聞取締役兼主筆校友本多文雄氏。文學と武進との極致、山口剛教授。大隈侯の日常生活、鹽澤學長。の外縣の講習會講演の爲め大に滞在中の藤井(健)文學博士、應援の爲め五里餘の道を自動車にて驅け付け、「此際最も憂ふべきは」の題下に講演せられた。此日炎熱燒くが如く、聴衆參百數十。散會後、校友會常任幹事高谷裕次氏、本多文雄氏、本大學評議員渡邊惣衛門氏、市會議員弓削徳次氏、江戸文氏等より晚餐に招待せられ、席上、募集に關する打合せなどがあつた。本縣に於ては「大隈侯爵記念事業寄附芳名録」(記念事業の趣意書と寄附帳とを奇麗に一冊に製本したもの)百冊を作り、各郡の校友之を分擔し、學生と共に各方面を勸誘する方針で、既に著々實行せられて居る。

◎同二十六日(龍ヶ崎) 學長一行午前十時着。縣會議員、關口直太郎氏、菊地仙之助氏其他の校友諸氏及び、學生委員と晚餐を共にした。(講演會) 大正座に開催の豫定であつたが、當日祇園祭の爲め、龍ヶ崎中學校に於て午後一時より開會。開會の辭縣會議員校友關口直太郎氏。に續いて、二木保幾教授。鹽澤學長の講演あり、當日水戸より渡邊惣衛門氏、土浦より縣會議員校友天谷丑之助氏が懇々應援に來られた。同夜は土浦に著。

◎同二十七日(土浦) 午前鹽澤學長は天ヶ谷氏と共に同地有力者を訪問。(講演會) 午後一時小野座に開會。開會の辭、縣會議員校友、天ヶ谷丑之助氏。國家及び國家觀念の發達、二木教授。芝居と史實、山口教授、民衆の上に立脚せる大隈侯、鹽澤學

望月嘉三郎氏 翁 玄 旨氏

◎牛込區下宿業有志會

牛込區内下宿業有志諸氏は先般來

の援助をなす様申合せありたり
當日出席者左之如し
早野 教 輔氏 原田 熊 藏氏
野村長太郎氏 鹽澤平治郎氏

長。聴衆五百餘。當日は水戸より本多文雄氏、弓削徳次氏、龍ヶ崎よりは關口直太郎氏が應援に來られた。

(歡迎會) 同夜花月樓に於て學長の歡迎會が開かれた。これまで歡迎會などは謝絶する方針であつたが、辭するを以ないで一行何れも出席。校友櫻井平兵衛氏、天ヶ谷氏、木多氏、弓削氏、大竹祐三郎氏等及び學生諸氏を合せて數十名、遅くまで賑かであつた。席上、校友側と學生側との打合もあつた。

◎同二十八日(下館) 一行午前十時着。出迎盛ん、花火の音が景きを添へる。校友學生諸氏が自動車で講演會のチラシを撒き散らす。縣會議員小田部藤一郎氏、校友池達之助氏、山中貴一氏、間々田浩平氏、伊藤忠治氏、學生渡邊新氏、中山毅雄氏などが中心となつて、活動された。(講演會) 午後一時下館劇場に開會。炎暑にも拘らず滿員の盛況、聴衆千二百。開會の辭、縣會議員小田部藤一郎、江戸の階級闘争山口教授。生活の意義、二本教授。民衆の大隈侯齋澤長。此日天ヶ谷丑之助、渡邊憲衛門氏が懇々來られた。(歡迎會) 同夜廣澤旅館の大間に開かれた。同町の有力者、校友、學生等數十名出席。小田部氏の挨拶、齋澤學長の謝辭があり、早稻田大學は政黨政派を超越した眞の國民的、民衆的大學であることを、我が校に關係なき人々

木兩教授は三日歸京。伊藤議員は水戸に立寄り、校友會に今後の運動を依頼し、三十一日歸京。

◎山形 田沼縣下方面
▲山形縣 山形縣下方面に於て北澤新次郎、高橋洋吉の二教授。外に主事土屋詮教委員植野包吉兩氏同行
◎七月二十一日(山形市) 午後三時縣會議事堂に開會、校友佐藤啓氏の開會の辭に始まり、細梅三郎氏の閉會の辭に終り、聴衆約五百頗る盛況を呈したり。
當月五十風健太氏、木内市之助氏等を始め多數の校友學生委員諸君は熱心盡力せらるゝと共に記念事業宣傳の資に供せんが爲め多數の記念繪端書を有志に頒、等活動せられたり
此夜學生諸君を加へて當市並に郡部校友の大會を山形ホテルに開かれ一行を招待せらる。出席者五十餘名
先づ席上幹事の改選あり、次に推薦校友候補者を發表し、地方委員の歡迎の辭、徳永博士、土屋主事の挨拶あり、記念事業に關する今後の活動方法等を協議せり。

◎同二十九日(松原) 一行午前十時着。土地の有力者校友、學生の出席頗る盛ん、煙火頻りに上る。伊藤議員、學長の代理として諸方面訪問(講演會) 午後一時開明座に開會。文字通り滿場立錫の地なき盛況。開會の辭、校友、日立鐵山の河村敏之、齋澤博士を迎へて、町會議員齋澤勲吉氏。所感、郡會議長、吉田事務取締役、吉田兼吉氏、挨拶、校友、松原炭礦株式會社の中脇要氏、俠客と敬討、山口教授。自由の意味、二本教授。知られざる大隈侯、齋澤學長。開會の辭、學生委員筒井三郎氏。(歡迎會) 同夜松風館に開會。同郡の主なる官公吏、有力者諸氏四拾餘名、之に校友學生を合せて約百名出席。町長大高馬治氏、吉田郡會議長、校友中脇氏、學生筒井氏の歡迎の辭に對し、齋澤學長は一行を代表して謝辭を述べられ、頗る盛會を極めた。此日水戸からは高谷祐次氏が來られた。同夜助川に宿泊。

◎同三十日 齋澤學長は縣講習會講演の爲め大洗に著。講演後、記念事業の宣傳をせられた。同講演の爲め四日間同地に滞在、八月一日、渡邊憲衛門氏、本多文雄氏同伴、水戸の有力者訪問、二日夜歸京。山口、二

◎七月二十二日(米澤市) 午後二時校友西野操氏駒形繁氏須藤榮吉氏學生委員盡力せられ米澤商業學校講堂に開會、聴衆三百有餘名盛會なり
午後六時半より招僱閣に於て一行の歡迎會を兼ね、當市有志及學生

◎七月二十三日(新庄町) 午後三時新庄小學校講堂に於て開會。校友佐藤理吉氏の開會の辭に始まり、是亦聴衆滿堂の盛況校友及學生委員諸君と共に新庄ホテルに會し、寄附金募集の法方に付き深更に至るまで協議を凝したり。當町講演開催に際し西川町長其他有志諸君は熱心斡旋に力められたり。

◎七月廿四日(酒田町) 午後六時より郡會議事堂に開會聴衆四百有餘名を算せり。
是より前當地校友及學生諸君の講師及職員一行招待會を開かれ、池田藤彌氏、佐藤次氏、須藤善太郎氏、相馬治太郎氏等をはじめ多數の校友學生委員は席上諸般の打合をなし晚餐を共にし講演會場に向へり。

◎七月二十五日(鶴岡町) 午後三時郡會議事堂に開會聴衆五百に達する盛況を見たり。終て校友學生諸君の主催にて一行の歡迎會を開かれ、出席者五十餘名、先づ主客の挨拶に次いで推薦校友候補者の披露及記念事業に關する諸般の協定等を経、一同和氣霽の裡に散會せり。當地に於ては郡部の大山、加藤の校友も多數參會せられ、佐藤政吉氏、村田重次郎氏加藤専二郎氏山口成吉氏篠原定治郎氏學生委員にては安藤武一氏を始め協力熱心に運動せられ寄附金募集に努力せられたり。

◎秋田縣 ▲擔當講師として本大學維持員阪本三郎氏、理學博士土永重康、高橋洋吉、小田内通敏の二教授講師に主事土屋詮教氏外に委員植野包吉氏同行

◎七月二十七日(秋田市) 先づ正午より御大典記念館に於て秋田縣校友大會を開き、幹事加賀盛治氏の歡迎の辭、坂本維持員の挨拶あり、晚餐後學生委員も參加して打合會を開き土屋主事より希望を述べ午後三時より講演會に移る。折しもの大雨にか、はらず頗る盛會なりき。同夜俱樂部に於て、井上市長始校友及有志諸君の一行歡迎會を開かる。席上豫め縣内運動方針に關し協議する處あり、二十八日の夜は土崎港に晚餐會を開き記念事業の運動法に付懇談する所あり校友奈良繁松氏の外土崎附近有志十餘名出席、午後十一時散會

◎七月二十九日(大館町) 一行秋田市を發して當町に入り午後二時より小學校講堂に於て開會數日打つきたる雨天にも拘らず聴衆滿場此夜小林町長泉茂家氏栗盛倉公氏、泉順次郎氏始め有志及校友學生諸君は一行の爲に歡迎會を齋藤旅館に開かれ席上種々協議を凝し散會せり。

◎八月三十日(船川町) 八月三十日午後二時より同町小學校講堂に開會船川町長中川重春氏始め同町青年會員及學生諸君の盡力殊に自働車宣

め協力熱心に運動せられ寄附金募集に努力せられたり。

傳等により、聴衆五百餘名場に溢る、の盛況なりき。終て大觀閣に一行歓迎の大懇親會を開かれ町長の歡迎の辭坂本維持員謝辭あり、記念事業に付極力盡力せらるべき事を中合せられ散會せり。

埼玉縣の講演會

●七月二十三日(粕壁町) 午後一時粕壁町小學校に於て開會、此日天氣酷熱なりしも、聴衆二百餘名に充したり。講演者は神尾銚吉、遊佐慶夫、中村仲、種村宗八の諸氏、校友委員田村章四郎氏の開會の辭あり午後六時閉會。同町すし金に於て講演會あり。

●七月廿四日(加須町) 午後二時加須町小學校に於て開會。講演者は神尾銚吉、遊佐慶夫、中村仲、種村宗八の四氏なり、聴衆三百餘人、校友の出席者は井上宗四郎、柿崎六郎、野本茂基知、酒卷景一、渡邊喜代、野崎健之等の諸氏、學生の出席者九名、閉會後、同町野木屋に於て講演會を開き席上に於て記念事業資金募集の熱議を遂げ散會せり。

●七月廿五日(熊谷町) 七月廿五日午後一時同町電氣館に於て講演會を開く、講演者は本大由派遣の神尾銚吉、遊佐慶夫、中村仲、種村宗八の諸氏の外に校友藤藤三氏の開會の辭、坂口郡視學、小島辯護士の應援演説ありて頗る活氣を呈したり。聴衆凡三百、校友の出席者は、佐藤三、佐藤經雄、長谷川堅治、山口平八、栗原利三郎、元在學者及島作左衛門加藤謙二等の諸氏、學生の出席者十六名、閉會後懇親會を開きて資金募集方法を協議し、校友委員長谷川堅治氏熊谷方面を擔任し、校友委員山口平八氏深谷方面を擔任し、校友學生一致協力する事を中合せて散會せり。

●七月廿五日(秩父町) 午後七時同町秩父座に於て開會す此日天氣酷熱に加ふるに降雨ありたるを以て初は聴衆少かりしが、終り頃には約三百名に達したり。本大學より派遣せる講演者は神尾銚吉、遊佐慶夫、中村仲、種村宗八の四氏にして、校友委員、松本由太郎氏、學生委員阿左美福治の演説の外に、關口郡長の應援演説あり、散會の後晚餐會を開きて、募集方法を熟議し、校友學生一致協力して其衝に當ることを中合せて散會せり。此日校友の出席者は松本由太郎、新井源亮、黒澤三代喜福、落合吾八郎、早卒業者淺賀朝之等の諸氏にして學生の出席者二名なり同町川越會館に於て開會す。同日は

地より參會せるもの多きを以て開會前に募集方法を熟議するの必要あり午餐會を同會館内に開き、安部立郎大川貞作、村木猶太郎等の校友委員が主となりて募集の衝に當ることに定め午後一時より講演を開始せり。當日は智識階級の聴講者多數あり總數凡二百餘名、講演者は内ヶ崎作三郎、神尾銚吉、山口剛、種村宗八の諸氏の外に校友安部立郎氏の開會の辭あり、午後五時散會せり。校友の出席者は安部立郎、大川貞作、鍋島秀太郎、村木猶太郎、鈴木源一、喜多義之、鈴木福太郎の諸氏、學生出席者十餘名。

●八月二十日(杉戸町) 八月二十日午後一時同町小學校に於て開會す此日午前北葛飾郡の青年會代表者の講習會ありたるを以て一般聴衆以外に全郡の青年團代表者に記念事業の趣旨を徹底せしむることを得たり。本大學派遣の講演者は杉山重義、小久江成一の二氏にして、此外に校友委員坂齋道一氏、郡視學小林治助、郡立農學校長河川惠助氏、田宮村秋山徳次郎氏等の應援演説あり、大喝采裏に閉會せり。尋て晚餐會を開きて資金募集方法を議し午後十時散會す。此日出席校友は坂齋道一、村田喜助、折原英の諸氏、學生の出席者數名。

●旭川の講演會
大正十一年八月六日安部教授一行御來旭を機とし北海ホテルに於て校友會を開く。出席者は安部磯雄、高杉瀧藏、猪股津南雄、齋藤敏雄の諸先生はじめ、宮下春一郎、立野、庄市、倉本、萬造、坂東幸太郎、下村、晴二、寺木、正造、浅見、陽一、笹井、濃厚、大瀧、猛夫(以上校友)井原、青山、山崎、海江田、荒井齋藤(以上學生)坂本氏開會の辭を述べ、安部教授より大隈侯記念事業の説明あり、尙ほ校友學生一同の援助を希望され、十日散會す。

●宮城縣記念事業宣傳
講演
母校の大計畫たる故總長記念事業に關しては、曩きに内ヶ崎教授、特に來仙能く其趣旨を傳へられ、當時幹事會に於て極力努力するの決議に據り、愈此夏季學生の休暇中縣下校友舉て一齊に活動開始の方針を樹て、恰も七月初旬上野幹事東京記念事業本部を訪ひて篤と打合せあり、在學生諸君も非常の意氣込を以て追々歸來し先づ支部事務所を仙臺南町日清生命樓上に開設して校友有志並に學生委員殆んど日日出動諸手配を盡せり。

●宮城縣記念事業宣傳
講演
母校の大計畫たる故總長記念事業に關しては、曩きに内ヶ崎教授、特に來仙能く其趣旨を傳へられ、當時幹事會に於て極力努力するの決議に據り、愈此夏季學生の休暇中縣下校友舉て一齊に活動開始の方針を樹て、恰も七月初旬上野幹事東京記念事業本部を訪ひて篤と打合せあり、在學生諸君も非常の意氣込を以て追々歸來し先づ支部事務所を仙臺南町日清生命樓上に開設して校友有志並に學生委員殆んど日日出動諸手配を盡せり。

宮下春一郎 山本 好一
坂本幸太郎 下村 晴二
倉本 萬造 淺見 陽一
西尾於菟四郎 粟屋 精一
以上八名にして、大隈侯記念事業寄附金募集に就ては、九月中に取纏め學校に報告する事とし、尙ほ滿場一致を以て下村晴二氏を校友に推薦し十一時散會せり。

自治體と協同的精神
安部 磯雄先生
大隈侯を想ふ 高杉 瀧藏先生
聴講者二千餘名に達し、各先生熱聲を揮はれ、多大の感動を與へ、小樽新田旭川支局長藤原佐壽氏の開會の辭を以つて、十一時散會せり。
八月十日午後七時より商業會議所内に於て校友會を開く出席者
内ヶ崎、氏家、永井、秋川の四教授出演
校友櫻井辰治君並に學生諸君出演の合間々々に於て交々記念事業に就き訴ふる處あり、殊に同地丹野實銀支店長の賛成演説ありて、千餘の聴衆をして大に感動せしめたり。夫れよ

り同地有志數十名により勝畫樓に於て教授の歡迎宴を開かる。
同日午後一時 佐沼町小學校に於て

内ヶ崎、秋田二教授出演

校友佐藤鐵郎君恰も令息奇禰に罹り家庭大取込中なるに拘らず、學生諸君を督して萬般準備に盡され田平評議員も一行に加り同地に赴き聽衆約六百同町稀有の盛會なりき。
同日午前九時 古川町古川座に於て

内ヶ崎、氏家、永井二教授出演

同地素封家にして校友なる米城榮一郎君學生諸君を指揮せられ非常の幹旋萬遺漏なかりき殊に内ヶ崎教授は同地出演不能なりしも有志の懇望除け難く迂回出演非常の同情を引けり
同日午後一時 氣仙沼町鼎座に於て

内ヶ崎、秋田の二教授出演

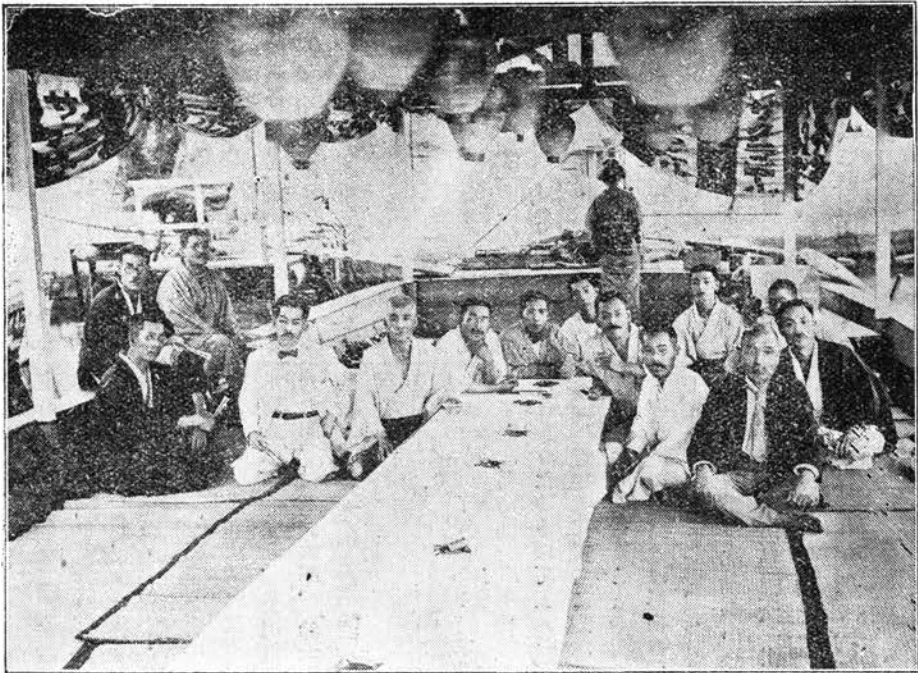
同地は一名の校友もなく學生齋藤直君を介して同地の有志と謀る處ありしに非常の贊同を得遠く鐵道を経てたる僻遠の地なるに拘らず稀有の盛會を極む殊に仙臺圖書館長校友池田菊左衛門君並に南講師が先發せられ準備に盡されたる勞は多とする處なり

同日午後一時 角田町高等女學校に於て

氏家、永井二教授出演

仙南に於て此處只一個所開催のこと

、田平評議員も同行幹旋に盡されたるも聽衆三百名に過ぎざりしが所謂伊貝柴田兩郡内の有識者を網羅し草靴がけ辦當持の熱心家多かりしは同町切つての有力家校友高橋文五郎君の盡力によりて開催聽衆數百名殆んど栗原郡内に於ける有力者の出席を得て母校に對し深き好了解を得た



員委傳宣季夏るけに於に城京

本懐の至りなりき
同日午後一時 若柳町若柳座に於て

氏家、永井、秋田の三教授出演

●仙臺市講演會

(四日午後一時開催市公會堂に於て)

當地は諸教授を迎へたる最初の日に於て開催する計畫なりしが時恰も諸講演流行のときとて如何にしても會場の都合付かず止むを得ず地方講演略一巡を了したる此日に於て催したり然るに會場稍偏したると折柄の酷暑にて聽衆僅々數百に満たざりしは出演教授を初め大意氣込を以て遙々郡部より來校せられたる校友諸兄並に晝夜準備に努力せられたる學生諸君の勞に對し御氣の毒の感深きものありき。然れども諸教授の瀟瀟を傾けられたる熱辯は比較的講演に馴致し居る當市人士に對し十二分の感動を與へたるは勿論克く母校の權威を發揮せるの感切實なりき、田平評議員佐藤鐵郎守屋孝作藤恒四郎幹事は諸教授出演の幕合をねらひ巧妙なる記念事業宣傳叫號振りは能く徹底して一般の同情を得たりき

◎富山縣氷川町に於ける講演會

七月二十四日午前十時より氷見高等女學校講堂にて文化講演會を開く、開會前既に聽衆堂に溢れ多大の期待を以て開會を待つ。

定刻校友たる安居校長の開會の辭あり、次いで密田教授は起ちて「光と電氣」の題下に最近科學の進歩並に電氣學の進歩より吾人日常生活と電氣應用の必用を通俗的に説かれ、次いで、内ヶ崎教授は偉軀を挺けて「海と文化」と題し「海は文化の搖籃であ

る。海に恵まれたる富山縣は幸福であり、その中心漁港たる氷見は亦多幸なりと云はねばならぬと滿堂の喝采を受け、更らに茫茫たるシベリアは、此地と僅か一緯一帶を隔つるに過ぎない、吾人は更らに進んで異郷人民の爲めに吾人の文化を移植し、發展せねばならぬと、大いに其の發展の必要を力説せられ、兩教授共各一時間交互に、聽衆に多大の感動と満足を得て閉會した。

山梨縣谷村町の講演會

山梨縣谷村町に於て八月廿七日故總長大隈侯爵紀念事業部宣傳の學術講演會を同町長安寺に開催せしに、聽衆約五百餘名、閉會後、同町甲斐絹同業組合樓上に、杉山内藤神尾の三教授及望月駒澤の一行を招待し、盛なる懇親會を催せり席上同業組合副

主賓 内ヶ崎教授、密田講師、翁 主事、茂木剛三郎氏
有志 湊嘉平次、絹野美太郎、大井義唱、鈴木録一、陸田秀太郎
校友 安井瀧三郎、大谷貞三、蜜義之、絹野元吉、袴茂一郎、石尾友嗣、高澤 豐平

長歡迎の詩を朗讀せらる。

吳の講演會

七月三十日の午後一時から吳市の吳座に於て中島半次郎、二木千年、杉山重義、渡部寅次郎四先生の文化講演が催された。吳市としては稀有の文化宣傳であるので市民は非常に感激してこの舉を迎へるし、吳日々新聞社では特に後援となつて連日に互りて紙面の都合がつくだけこの會のために豊富な記事を掲げて下さつたので、九十六度と云ふ日盛りの劇場に七百の聴衆を招くを得た。勿論、學生諸氏の熱狂的奔走が又非常に有効であつたのは云ふまでもない。順序は、

開會之辭 佐々木千秀
智能的資産の開發に就て 渡部寅次郎
常識と非常識 二木 千年
思想問題と大學教育 杉山 重義
産業立國と教育 中島半次郎
閉會之辭 宇高 信一

午後一時から五時まで、聴衆は倦むことなく非常に緊張して聞き惚れてゐた。吳市は最も新しい労働都市であるだけに、又最も謙虚なる知識乃至真理の渴仰者が多いのであつた。

その次、七時から教授と母校から再び來吳せられた大久保、木原兩氏を主賓として校友、學生、市内有志合同の歡迎晚餐會がカフェ、ブラジルで催された。非常に打解けてみんな一つになつて歡談盡きるを知らず

十一頃やつと解散した。この夜も三十七名の來會者があつた。有志として主なる人は石丸吳日々新聞記者、宮部實業同志會幹事、宮川興文中學校長等であつた。

廣村に於ける活動寫眞及文化講演會

天下の模範村を以つて有名なる安藝國賀茂郡廣村は近年、吳海軍工廠の支廠が設けられてから校友も一時は十名も在住した。先輩では縣會議員の大石菊次郎氏がある事を忘れてはならない。今年、母校の文化宣傳及記念事業資金募集の噂さが傳はるや廣村在住の學生校友は相協力して七月二十八日二十九日と廣村唯一の常設館たる朝日館を買ひ切つて、そして先づ活動寫眞で近隣の村民の感激を得た。兩夜とも聴衆場に溢れて入場を謝絶したと云ふのである。三十一日には吳から中島半次郎渡部寅次郎兩教授が出張せられて同村公會堂で講演をせられた。

開會之辭 大石菊次郎
發明的智能の發達につき 渡邊寅次郎
教育上より見たる人生觀 中島半次郎
閉會之辭 天野廣村小學校長

農事に忙しかるべき村の人達がそれぞれ都合をして約五百の聴衆があつたのには世話係りの校友も非常に嬉れしいと思つた。殊に半数は婦人の出席者であつた。講演が済むと二教授は三艘の汽船で海路沿岸の風景や

音戸の瀬戸の夕景色を眺めながら呉れに向はた。

鳥取縣西部校友會と講演會

校友會鳥取縣支部の内伯耆國西伯日野兩郡の校友及び歸省學生は、七月十五日米子町に於て懇親會を開き多數出席、校友稻田元長學生油木兵吉郎等諸氏より大隈侯記念事業に就き諮る所あり各自運動に着手した。次いで同月三十日母校教授服部文四郎同寺尾亨幹事前田多藏の三氏を米子町に迎へ同日午後一時より西伯郡物産陳列所樓上に於て一般文化講演會を開き盛況を極めた。

京城校友會と記念事業講演會
今回母校教授松平康國、阿部賢一及前田幹事三氏來城せられたるを以て八月十四日午後七時半より、京城公會堂に於て故大隅總長記念事業宣傳講演會を開きたるが、聴衆五百名に達し中々盛會なりき。而して兩教授の演題は左の如し。

人間的經濟を論ず 阿部 賢一
大隈侯 松平 康國

於て、右三氏を歓迎せん爲め臨時校友會を開きしに、時偶盛夏の候なると病氣事故等にして出會者の多からざりしは誠に遺憾なりき。宴半ばにして落合幹事より挨拶あり、之に對し松平教授より謝辭あり終て庭前に

於て撮影を爲し、隨意快談を交へ、午後十時散會したり。當夜の出席者は左の如し。

松平 教授 阿部 教授 前田 幹事
牧山代議士 權藤四郎介 菊池 謙議
朝倉外茂殿 福永 喜八 吉田惇二郎
建井連三郎 富田 吉夫 川西 敏雄
鮮 干 全 入野 省三 露崎 薫
林原 憲貞 木塚 常三 田中誠之助
落合 兼光

尚ほ松平教授一行は十六日朝仁川に行き同地に於ける校友會及講演會に出席し翌十七日早朝仁川發元山に向ひ十八日夜元山發十九日朝京城着二十日出發釜山へ向へり。(落合報)

奉天校友大會と講演會

故大隈侯紀念事業宣傳の爲、滿鮮各地巡回講演の途に上られたる、前田多藏、松平康國、阿部賢一、三氏の來奉を期として、八月十二日午後三時より當地公會堂に於て、臨時校友大會を開催した。參會者二十二名(内撫順三名長春一名、大連一名)豫ねて在滿校友の聯絡をとり、親睦を計る目的を以て、是非共滿洲校友大會なるものを催したい希望のあつた處から、此の時を期して、關東州外大會の名の下に集會することになつて長春、撫順、鞍山、大石橋其他の校友に宛て、夫々案内狀を發した。突發的の事であつたに拘はらず、遠路長春、撫順、大連等から代表者の出席を見たのは先づ成功と言はなくてはならぬ。追而充分なる準備をし

て、名實相伴ふ滿洲大會を開催することに各地代表者諸氏と合議の上決定した。

會食後、阿部賢一氏の「一轉期に頻する社會」、松平康國氏の「大隈侯と國家」、なる演題の下に夫々熱辯を振はれ、在留邦人多數の知識を大いに啓發せられた。

出席者

主 賓 松平康國氏
阿部賢一氏 前田多藏氏
校 友 石田 武亥 皆川 秀孝
手塚 安彦 坪井 秀垣 鶴田 恆夫
三 明 諒夫 小松利兵衛 中村 元次
野 中 忠太 上田 正捷 渡邊 裕康
小松崎 清 上田 正弘 木谷 辰巳
(以上在奉天)
德丸助太郎 (長春代表)
大野 憲吉 高橋福三郎 島 彌
稻葉 武 (大連代表)
(撫順代表)

故總長大隈侯爵記念事業

資金申込芳名

第五回(自大正十一年八月廿七日
至同九月廿日)

各府縣累計

東京府	三九八、二九五、〇〇
大阪府	三七、一三三、八五
愛知縣	二五、九〇八、七四
兵庫縣	一八、八四二、八四
長崎縣	一二、〇六三、六六
新潟縣	一一、九九四、六〇
福岡縣	九、四九二、四〇
山形縣	七、六五四、五〇
廣島縣	七、五〇八、五〇
富山縣	七、三〇六、五〇
千葉縣	六、七一二、三〇
長野縣	六、六五〇、五〇
香川縣	六、五五〇、一〇
靜岡縣	六、一六一、五〇
京都府	六、〇八八、〇〇
山梨縣	五、七八〇、五〇
岡山縣	五、六七四、五〇
福島縣	五、一四七、四五
佐賀縣	四、七二〇、五〇
群馬縣	四、二六六、二〇
三重縣	四、一〇三、六五
岐阜縣	三、九八二、七〇
石川縣	三、二三〇、一三
栃木縣	三、〇五八、五〇
埼玉縣	三、〇二四、二〇

青森縣	二、九七二、二〇
和歌山縣	二、七四七、五〇
神奈川縣	二、四七九、五〇
秋田縣	二、四三一、二〇
工手學校卒業生	二、一五八、〇〇
支那	二、一三五、〇〇
滿洲	二、〇七五、〇〇
朝鮮	一、九七二、二〇
山口縣	一、六一三、一五
鹿兒島縣	一、三〇六、〇〇
德島縣	一、〇七五、七〇
宮城縣	一、〇七三、五〇
愛媛縣	一、〇四六、五〇
北海道	八四〇、〇〇
臺灣	六二一、〇〇
鳥取縣	五六一、五〇
茨城縣	三九九、二〇
奈良縣	三九六、五〇
島根縣	三六一、八〇
大分縣	二六八、五〇
福井縣	二〇九、七〇
熊本縣	一六二、五〇
高知縣	一四七、〇〇
樺太	五九、〇〇
沖繩	三〇、〇〇
宮崎縣	二七、三〇
海外	二五、〇〇
滋賀縣	二一、七〇
岩手縣	二一、五〇
青島	一一、〇〇
總累計	六四〇、五七三、九七

東京府	一、五〇〇、〇〇
上原 鹿造殿	一、〇〇〇、〇〇
黑田善太郎殿	一、〇〇〇、〇〇
飯田新太郎殿	一、〇〇〇、〇〇
瀨木 博尚殿	一、〇〇〇、〇〇
株苗代水力電氣株式會社內稻苗會	一、〇〇〇、〇〇
井上 博殿	二〇〇、〇〇
早川精太郎殿	二〇〇、〇〇
加藤 好真殿	二〇〇、〇〇
横山 健殿	二〇〇、〇〇
吉川 宣晴殿	二〇〇、〇〇
村田 光敬殿	二〇〇、〇〇
牛島 參郎殿	二〇〇、〇〇
野崎 貞逸殿	二〇〇、〇〇
久保 憲一殿	二〇〇、〇〇
丸山 壽殿	一八〇、〇〇
藤田進一郎殿	一五〇、〇〇
古市 皓殿	一五〇、〇〇
小山 三郎殿	一五〇、〇〇
青戸 正臣殿	一五〇、〇〇
佐伯 信次殿	一五〇、〇〇
北爪 知二殿	一五〇、〇〇
水船 克之殿	一五〇、〇〇
久田 雅雄殿	一〇八、〇〇
杉原美佐雄殿	一〇八、〇〇
杉山 辰殿	一〇〇、〇〇
梅谷 定吉殿	一〇〇、〇〇
小野 美夫殿	一〇〇、〇〇
森 辨治郎殿	一〇〇、〇〇
秋田 武雄殿	一〇〇、〇〇
帆足理一郎殿	一〇〇、〇〇
正路喜社	一〇〇、〇〇
宮澤源三郎殿	一〇〇、〇〇

株式會社國定教科書共	三〇〇、〇〇
會社所林 平次郎殿	二〇〇、〇〇
福田雅之助殿	二〇〇、〇〇
堀内七十郎殿	二〇〇、〇〇
川合孝太郎殿	二〇〇、〇〇
松井元太郎殿	二〇〇、〇〇
三田村甚十郎殿	二〇〇、〇〇
二階堂行善殿	二〇〇、〇〇
野間 清治殿	二〇〇、〇〇
中西京次郎殿	二〇〇、〇〇
市川 繁彌殿	二〇〇、〇〇
寺西 久男殿	二〇〇、〇〇
前橋 孝義殿	二〇〇、〇〇
近藤 游彌殿	二〇〇、〇〇
竹中 二郎殿	一八〇、〇〇
牧野 鑑造殿	一五〇、〇〇
鈴木 宗七殿	一五〇、〇〇
黒井 梧殿	一五〇、〇〇
富澤仙太郎殿	一五〇、〇〇
丹尾磯之助殿	一五〇、〇〇
阿部 良夫殿	一五〇、〇〇
石野 定見殿	一五〇、〇〇
南 晴耕殿	一五〇、〇〇
土肥禮太郎殿	一〇八、〇〇
篠原 喬亮殿	一〇八、〇〇
品川十一郎殿	一〇〇、〇〇
(故池田實一殿分)	
池田 龍一殿	一〇〇、〇〇
瀨川 三郎殿	一〇〇、〇〇
小川芳太郎殿	一〇〇、〇〇
齋藤三稚男殿	一〇〇、〇〇
有田 雪治殿	一〇〇、〇〇
原田 長松殿	一〇〇、〇〇

神奈川縣

一〇、〇〇 齋藤 金藏殿
 一〇、〇〇 河本 義一殿
 一〇、〇〇 水村 大成殿
 一〇、〇〇 丸島竹次郎殿
 五、〇〇 米津 政治殿
 五、〇〇 川名 壽殿
 五、〇〇 田邊初九郎殿
 五、〇〇 稻本 寅松殿
 五、〇〇 山本芳之助殿
 五、〇〇 出川 清助殿
 五、〇〇 龜山雅太郎殿

三圓宛
 七野末一殿○谷山之安殿

二圓宛
 淺野安太郎殿○高畑榮藏殿○鷹野德次殿○藤懸總二殿○菅澤久平殿○菅沼雄吉郎殿○西村伊助殿○玉川清也殿○眞田鐵舟殿○鈴木慶治殿○武山保德殿○内海倉次郎殿○鈴木直太郎殿○村本武夫殿○長沖小三郎殿○伊藤忠助殿○土橋金次郎殿○小山藏吉殿○鈴木芳正殿○中根慎二殿○小林德太郎殿○菊山立次郎殿○木下善太郎殿○鈴木元太郎殿○風間武次郎殿○田村惣吉殿○村田健治殿○猪瀬楚吉殿○島田親雄殿○小池正男殿○岡本ハツ殿○橘く殿
 日清印刷株式會社
 累計一一、六二一、五〇
 正誤前號 一八圓 江口造殿ヲ
 前號 二〇圓 織内秀雄殿二
 口ハ一口ニ訂正

二〇〇、〇〇 吉田 義之殿
 二〇〇、〇〇 山口 堅吉殿
 一〇〇、〇〇 健和田修平殿

三圓宛
 福井伊三郎殿○梶四郎殿

二圓宛
 平野峰藏殿○小山武三郎殿○木原衆藏殿○花谷佐藏殿○松下卯之吉殿○脇薰雄殿

一圓宛
 横田眞殿○曾根喜代作殿○渡邊久雄殿○酒井惠安吉殿○山上正男殿○鈴木省三殿○小脇清治殿○藤原譽志惠殿○岩崎昌殿○森田喜和殿○篠崎源兵衛殿○岩壁佐一郎殿○廣瀬將勝殿○平才五郎殿○安香清子殿○大濱鶴一殿○播摩定雄殿○鈴木畏殿○鈴木清殿○西川泰一殿○齋藤本一殿○四條卷大郎殿○木村亦一郎殿○井口千尋殿

千葉縣

五十錢宛
 池町利夫殿○堀越時一郎殿○今井宏太郎殿○青木峰次郎殿○肥田鹿藏殿

一〇〇、〇〇 椎名清次郎殿
 一〇〇、〇〇 同儀一郎殿
 一〇〇、〇〇 山崎英太郎殿
 一〇〇、〇〇 寺内 穎殿
 一〇〇、〇〇 萬里小路通房殿
 一〇〇、〇〇 三枝 治部殿
 一〇〇、〇〇 佐瀬 家信殿
 一〇〇、〇〇 土屋 晴殿

一〇〇、〇〇 佐瀬 信久殿
 七五、〇〇 加瀬 喜十殿
 六〇、〇〇 古川長太郎殿
 六〇、〇〇 鈴木福太郎殿
 五〇、〇〇 武内傳太郎殿
 三〇、〇〇 武田德次郎殿
 三〇、〇〇 林太喜一郎殿
 三〇、〇〇 津田 秋司殿
 三〇、〇〇 松岡 則章殿
 三〇、〇〇 片岡 金彌殿
 三〇、〇〇 岡垣 長吉殿
 三〇、〇〇 齋藤 初雄殿
 三〇、〇〇 宮崎 廉殿
 三〇、〇〇 板倉 通猛殿
 三〇、〇〇 今井 彰殿
 三〇、〇〇 酒井 純三殿
 二五、〇〇 積田英三郎殿
 二五、〇〇 花澤 正二殿
 二〇、〇〇 小宮禹之助殿
 二〇、〇〇 白鳥 嘉六殿
 二〇、〇〇 東條 藏治殿
 二〇、〇〇 森川 傳吉殿
 二〇、〇〇 小川 文男殿
 二〇、〇〇 島崎 富八殿
 一五、〇〇 渡邊 定吉殿
 一五、〇〇 城風 常松殿
 一〇、〇〇 今井 惣作殿
 一〇、〇〇 青柳 龜吉殿
 一〇、〇〇 松本紋四郎殿
 一〇、〇〇 千葉 清殿
 一〇、〇〇 深田長四郎殿
 一〇、〇〇 今井 治一殿
 一〇、〇〇 宮本 敬義殿

一〇、〇〇 土岐 義雄殿
 一〇、〇〇 梶 七郎殿
 一〇、〇〇 高梨 善藏殿
 一〇、〇〇 糸井 玄殿
 一〇、〇〇 大塚 憲哉殿
 一〇、〇〇 武田刑部左衛門殿
 一〇、〇〇 丸有 章殿
 一〇、〇〇 榎本半兵衛殿
 一〇、〇〇 廣瀬 長次殿
 一〇、〇〇 藤田國太郎殿
 五、〇〇 金網 純一殿
 五、〇〇 高田 岩松殿
 五、〇〇 檜垣 直右殿
 五、〇〇 布留川仙之助殿
 五、〇〇 布留川與五右衛門殿
 五、〇〇 井下田良平殿
 五、〇〇 高梨長吉郎殿
 五、〇〇 大多和與四郎殿
 五、〇〇 石井 與作殿
 五、〇〇 山田 精吾殿
 五、〇〇 外山 萬治殿
 三圓宛
 平田權一郎殿○片岡清殿○中村和吉殿○齋藤寬三郎殿○山田寬雄殿○高沼廣運殿○吉田瀨殿○齋藤昌雄殿○高山四郎殿○林嘉作殿○常泉甚之丞殿○飯高彌一殿○板倉慶雄殿○石原了一殿○石井彦次郎殿○白井悅三郎殿○相久作殿○千安宣治郎殿

二圓宛
 高仲誠一殿○根本精一殿○植草歸一殿○阿井仲司殿○金坂武殿○高柳直吉殿○古川義郎殿○古川長殿○鈴木

一圓宛
 五平次殿○關屋常吉殿○關屋五六殿○時田辰夫殿○平野芳太郎殿○石井喜一殿○矢部林三郎殿○中田登之殿○常泉健之丞殿○飯高庄三郎殿○森健五郎殿○鶴澤善吉殿○高石利之殿○武田春洞殿○右谷光隆殿○岡田柳之助殿○齋藤孝次殿

一圓五十錢宛
 石井實殿○越川進殿○米良正一郎殿

一圓宛
 小宮萬治殿○本田柳子殿○地曳廷殿○地曳政子殿○地曳千文殿○阿井卓郎殿○今井吉三郎殿○高仲力殿○高仲禎一郎殿○阿井貞三郎殿○井下田精一殿○市東嚴武殿○長谷川キ工殿○鈴木萬次郎殿○古川與惣左衛門殿○古川玄澄殿○久我義太郎殿○野口海印殿○松丸米藏殿○青木藤吉殿○椎野健二郎殿○東條甲之殿○河野市雄殿○牧野新次郎殿○高橋太一郎殿○秋葉源八殿○石川善右衛門殿○高山千代松殿○牧野正雄殿○森川隆德殿○齋藤宇吉殿○森川庄吉殿○倉持信知殿○丸弘毅殿○桑恒傳次郎殿○宮山安次郎殿○鈴木政平殿○十枝市兵衛殿○森源一殿○河野榮二殿○竹下林藏殿○河野一郎殿○大多和輝殿○鶴澤玄吉殿○鶴澤源節殿○吉田友太郎殿○常泉真幸殿○石渡晃殿○脇田三千雄殿○鎗川守殿○高名利三殿○板倉茂雄殿○栗原信雄殿○霞明殿○鈴木衛殿○森田豐和殿○布施龜治殿○藤堂佐太郎殿○内良四方吉殿○

浦野政九郎殿○原田佐 殿○塚越喜
平殿○高橋傳十郎殿○金子絳彌殿○
中澤重兵衛殿○長澤廣美殿○富澤喜
藏殿○室賀謙忠殿○元山嘉市殿○石
田利藤大殿○小林三津治殿○能谷
み殿○折原佐助殿○山田豐吉殿○板
井辰三郎殿○田中幸次殿

二 圓宛

梅澤眞一殿○西山照吉殿○小池清平
殿○島淵西部小學校殿○中島德一殿
○小西辰治殿○關和一郎殿○大井菊
松殿○柴崎波吉殿○飯塚文五郎殿○
萩原平八郎殿○原田寛一殿○板垣宗
太郎殿○吉岡友五郎殿○山西留次郎
殿○大類芳松殿○小山貞吉殿

一 圓宛

中島儀三郎殿○須藤殿○沼田淺吉
殿○平澤寛一殿○齋藤金三郎殿○田
中仲之殿○淡路廣吉殿○關口茂小殿
○乙部壽哉殿○黒田イヨ殿○淺見龍
造殿○岩佐五郎治殿○高橋健一殿○
遠坂徳太郎殿○柳澤清郎○田島琴司
殿○岩崎健一殿○佐藤さく殿

五十錢宛

大山恵造殿○松井康太郎殿○松島源
吉殿○新井力雄殿○大友英義殿○三
輪資十郎殿

福島縣

三〇〇、〇〇 赤間善治郎殿
二〇〇、〇〇 淡 芳藏殿
一八〇、〇〇 佐藤三三郎殿
一五〇、〇〇 吉野 忠治殿
一〇〇、〇〇 長谷川兵吉殿

若松兵衛組合總代

一〇〇、〇〇	穴澤 義弘殿	三〇、〇〇	渡部 龜吉殿	二〇、〇〇	山口 榮吾殿	一〇、〇〇	鈴木伊八郎殿
一〇〇、〇〇	高瀬喜左衛門殿	二〇、〇〇	猪又 留八殿	一五、〇〇	秋山 義次殿	一〇、〇〇	松山 忠殿
一〇〇、〇〇	葛岡庄兵衛殿	三〇、〇〇	室井 京平殿	一五、〇〇	山本 親武殿	一〇、〇〇	小汲 清殿
一〇〇、〇〇	齋藤 蝦次殿	三〇、〇〇	渡部恒次郎殿	一五、〇〇	佐々木木平殿	一〇、〇〇	横山 平助殿
一〇〇、〇〇	福西伊兵衛殿	三〇、〇〇	伊藤周次郎殿	一五、〇〇	林 平 藏殿	一〇、〇〇	宮森和三郎殿
七五、〇〇	山口 儀平殿	三〇、〇〇	黒野嘉右衛門殿	一五、〇〇	井上重兵衛殿	一〇、〇〇	石川 文七殿
六〇、〇〇	車田清五郎殿	三〇、〇〇	福西伊右衛門殿	一五、〇〇	大須賀豊吉殿	一〇、〇〇	藤田 貞吉殿
六〇、〇〇	三井 豊興殿	三〇、〇〇	河野善九郎殿	一五、〇〇	新坂平右衛門殿	一〇、〇〇	大河原善五郎殿
六〇、〇〇	波部 喜一殿	三〇、〇〇	田部 善志殿	一五、〇〇	山内 正規殿	一〇、〇〇	山田 榮次殿
五〇、〇〇	満田 善内殿	三〇、〇〇	井口愛之助殿	一五、〇〇	加藤榮次郎殿	一〇、〇〇	山川 近太殿
五〇、〇〇	芳賀 沼武殿	三〇、〇〇	谷内 肇殿	一五、〇〇	中村 謙吾殿	一〇、〇〇	吉村八太郎殿
五〇、〇〇	馬場 滋雄殿	三〇、〇〇	齋藤勇太郎殿	一〇、〇〇	小高 寅純殿	一〇、〇〇	星 新次郎殿
五〇、〇〇	西山仙太郎殿	三〇、〇〇	横山 惣藏殿	一〇、〇〇	渡部 鼎殿	一〇、〇〇	鎌 常吉殿
五〇、〇〇	佐藤 辰吉殿	三〇、〇〇	根本 清八殿	一〇、〇〇	古川 俊壽殿	一〇、〇〇	加藤初太郎殿
五〇、〇〇	小林 颯雄殿	三〇、〇〇	阿久津政次郎殿	一〇、〇〇	横山源重郎殿	一〇、〇〇	横山 成雄殿
五〇、〇〇	佐藤 佐吉殿	三〇、〇〇	牛龜 藤吾殿	一〇、〇〇	相馬 政三殿	一〇、〇〇	齋藤 健藏殿
五〇、〇〇	三田 四郎殿	三〇、〇〇	渡部彦三郎殿	一〇、〇〇	齋藤 幸元殿	一〇、〇〇	齋藤 健藏殿
五〇、〇〇	新城猪之吉殿	三〇、〇〇	那部 兵衛殿	一〇、〇〇	菊地 喜平殿	一〇、〇〇	林 平八郎殿
五〇、〇〇	谷 半兵衛殿	三〇、〇〇	高橋倉右衛門殿	一〇、〇〇	山口吉次郎殿	一〇、〇〇	中村 萬吉殿
五〇、〇〇	高橋 久吉殿	三〇、〇〇	佐藤 尙友殿	一〇、〇〇	桑原虎三郎殿	一〇、〇〇	石川定次郎殿
五〇、〇〇	五十嵐惣吉殿	二〇、〇〇	渡邊 憲三殿	一〇、〇〇	淺沼 紀義殿	一〇、〇〇	渡邊 專輔殿
三〇、〇〇	舟山 豊吉殿	二〇、〇〇	磯谷 勝吉殿	一〇、〇〇	小澤久三郎殿	一〇、〇〇	小野崎初太郎殿
三〇、〇〇	森川善兵衛殿	二〇、〇〇	西村屋寅藏殿	一〇、〇〇	小楢山兵衛殿	一〇、〇〇	佐原惣右衛門殿
三〇、〇〇	齋藤惣三郎殿	二〇、〇〇	河藤節太郎殿	一〇、〇〇	波濤貞次郎殿	一〇、〇〇	遠藤忠次右衛門殿
三〇、〇〇	大竹幸三郎殿	二〇、〇〇	古川源次郎殿	一〇、〇〇	五十嵐佐多郎殿	一〇、〇〇	中野善之助殿
三〇、〇〇	白井爲三郎殿	二〇、〇〇	坂井猪久治殿	一〇、〇〇	白井 泰三殿	一〇、〇〇	山口 喜八殿
三〇、〇〇	小澤 五郎殿	二〇、〇〇	成田 太助殿	一〇、〇〇	熊川 清進殿	一〇、〇〇	森本 登代殿
三〇、〇〇	杉原 禎造殿	二〇、〇〇	渡部 又八殿	一〇、〇〇	佐藤良太郎殿	一〇、〇〇	森本 日誓殿
三〇、〇〇	上野善太郎殿	二〇、〇〇	前田 豊殿	一〇、〇〇	白井 源八殿	一〇、〇〇	西澤吟次郎殿
三〇、〇〇	元木喜代松殿	二〇、〇〇	相田八四郎殿	一〇、〇〇	佐瀬 恒壽殿	一〇、〇〇	大島 半藏殿
三〇、〇〇	佐治幸八郎殿	二〇、〇〇	澁川善太郎殿	一〇、〇〇	足 智順殿	一〇、〇〇	満山長左衛門殿
三〇、〇〇	遠藤 喜重殿	二〇、〇〇	白井 榮登殿	一〇、〇〇	太田伊之吉殿	一〇、〇〇	猪代町本町青年團代表者
					渡邊 運吉殿		渡邊 徳次殿

吉田サク殿○藤田チヨ殿○丸山イワ
 エ○松澤キツ殿○大内ケン殿○淺野
 きゑ子殿○中屋よし殿○時田きよみ
 殿○齋藤リヨ殿○及川ミツ殿○武田
 ふみ殿○大橋はる榮殿○薄井カネ殿
 ○村井マサ殿○納谷ツヤ子殿○能登
 谷ハナ殿○石川カツ殿○加藤マツ殿
 ○播磨谷カノ殿

山形縣

一、〇〇〇、〇〇〇 秋野 光廣殿
 二〇〇、〇〇〇 渡邊和一郎殿
 二〇〇、〇〇〇 岸三郎兵衛殿
 二〇〇、〇〇〇 佐藤 政吉殿
 二〇〇、〇〇〇 佐藤 啓殿
 一五〇、〇〇〇 佐藤兵三右衛門殿
 一五〇、〇〇〇 原田吉衛門殿
 一五〇、〇〇〇 細梅 三郎殿
 一〇〇、〇〇〇 五十嵐勘三郎殿
 一〇〇、〇〇〇 石垣 市郎殿
 一〇〇、〇〇〇 安部彦四郎殿
 一〇〇、〇〇〇 升川 倉松殿
 一〇〇、〇〇〇 仲野半四郎殿
 一〇〇、〇〇〇 西野孝太郎殿
 一〇〇、〇〇〇 今井 恭藏殿
 一〇〇、〇〇〇 佐藤莊右衛門殿
 一〇〇、〇〇〇 今井雄太郎殿
 一〇〇、〇〇〇 村井 六助殿
 一〇〇、〇〇〇 村田重次郎殿
 一〇〇、〇〇〇 野尻 義孝殿
 一〇〇、〇〇〇 志鎌 重助殿
 一〇〇、〇〇〇 後藤貞次郎殿
 一〇〇、〇〇〇 後藤 正司殿
 一〇〇、〇〇〇 齋藤龜太郎殿

一〇〇、〇〇〇 柿本 榮殿
 七五、〇〇〇 半澤 建吉殿
 五〇、〇〇〇 山形電氣社
 五〇、〇〇〇 株式會社
 五〇、〇〇〇 兩羽銀行殿
 五〇、〇〇〇 大友 俊三殿
 五〇、〇〇〇 岡崎彌平治殿
 五〇、〇〇〇 木口市之助殿
 五〇、〇〇〇 原田善兵衛殿
 五〇、〇〇〇 柏倉 文藏殿
 三〇、〇〇〇 白田彌右衛門殿
 三〇、〇〇〇 齋藤伊右衛門殿
 三〇、〇〇〇 高橋倫之助殿
 三〇、〇〇〇 山口 戊吉殿
 三〇、〇〇〇 奥山敬太郎殿
 三〇、〇〇〇 荻野清太郎殿
 三〇、〇〇〇 高橋 太三殿
 三〇、〇〇〇 三段崎俊半殿
 三〇、〇〇〇 八 善藏殿
 三〇、〇〇〇 草薙茂太郎殿
 三〇、〇〇〇 原田與惣衛門殿
 二〇、〇〇〇 小野朋太郎殿
 二〇、〇〇〇 宇井半左衛門殿
 二〇、〇〇〇 高梨源五郎殿
 二〇、〇〇〇 和田 啓治殿
 二〇、〇〇〇 淺黃 勘七殿
 二〇、〇〇〇 柴田大之助殿
 二〇、〇〇〇 植松隆太郎殿
 二〇、〇〇〇 佐藤源三郎殿
 一五、〇〇〇 木村 良朔殿
 一〇、〇〇〇 和川 善八殿
 一〇、〇〇〇 阿部彌太郎殿
 一〇、〇〇〇 西山 光藏殿

一〇、〇〇〇 石川 善司殿
 一〇、〇〇〇 高野源五郎殿
 一〇、〇〇〇 中條 梅節殿
 一〇、〇〇〇 落田 忠喜殿
 一〇、〇〇〇 尾原 儀助殿
 一〇、〇〇〇 林 鐵太郎殿
 一〇、〇〇〇 尾關七之助殿
 一〇、〇〇〇 下山又兵衛殿
 一〇、〇〇〇 南間 月乘殿
 一〇、〇〇〇 檜 國吉殿
 一〇、〇〇〇 石澤 廣治殿
 一〇、〇〇〇 石澤健次郎殿
 一〇、〇〇〇 高桑喜之助殿
 一〇、〇〇〇 土屋 忠八殿
 一〇、〇〇〇 阿部元治朗殿
 一〇、〇〇〇 杉浦 新造殿
 一〇、〇〇〇 豐田小學校
 一〇、〇〇〇 職員一同殿
 一〇、〇〇〇 富樫 惣助殿
 一〇、〇〇〇 水屋 重謙殿
 一〇、〇〇〇 皆川 平内殿
 一〇、〇〇〇 佐々木春作殿
 一〇、〇〇〇 高橋 藤助殿
 一〇、〇〇〇 白谷 善藏殿
 一〇、〇〇〇 市川藤太郎殿
 一〇、〇〇〇 歌川駒次郎殿
 一〇、〇〇〇 川合 忠藏殿
 一〇、〇〇〇 鈴木益五郎殿
 一〇、〇〇〇 伊藤 茂松殿
 一〇、〇〇〇 坂富 成殿
 一〇、〇〇〇 志摩 文藏殿
 一〇、〇〇〇 栗野 甚助殿
 一〇、〇〇〇 長谷川金太郎殿
 一〇、〇〇〇 水野 廉平殿

五、〇〇〇 渡邊德太郎殿
 五、〇〇〇 渡邊正三郎殿
 五、〇〇〇 吉澤利兵衛殿
 五、〇〇〇 池田運太郎殿
 五、〇〇〇 林崎兵衛殿
 五、〇〇〇 北條 義雄殿
 五、〇〇〇 渡部 恒藏殿
 五、〇〇〇 山内 英尾殿
 五、〇〇〇 渡邊源太郎殿
 五、〇〇〇 庄司禮一郎殿
 五、〇〇〇 遠藤金兵衛殿
 五、〇〇〇 遠藤茂兵衛殿
 五、〇〇〇 西堀 又藏殿
 五、〇〇〇 齋藤小四郎殿
 五、〇〇〇 佐藤信司郎殿
 五、〇〇〇 中村太次郎殿
 五、〇〇〇 大熊 常藏殿
 五、〇〇〇 大海 政藏殿
 五、〇〇〇 菅原 金馬殿
 五、〇〇〇 佐藤繁三郎殿
 三圓宛
 石井利兵衛殿○松井孝太郎殿○西野
 芳太郎殿○木村忠三殿○西田芳松殿
 ○齋藤勸藏殿
 二圓宛
 中村良太郎殿○丸山利夫殿○佐藤吉
 十郎殿○河田好之殿○今田徳四郎殿
 ○東條盛大殿○木村國藏殿○根岸與
 七郎殿○林崎榮助殿○阿部丑太郎殿
 ○小濱潔殿○奥山彌七殿
 一圓五拾錢宛
 武田賢治郎殿○佐藤篤殿
 一圓宛

山梨縣

三〇〇、〇〇〇 新津 隆一殿
 三〇〇、〇〇〇 長田 瑛殿
 三〇〇、〇〇〇 淺川 湖朗殿
 三〇〇、〇〇〇 小宮山清三殿
 三〇〇、〇〇〇 長谷川苗實殿
 三〇〇、〇〇〇 名取 忠愛殿
 二〇〇、〇〇〇 橫澤米太郎殿
 二〇〇、〇〇〇 北村 謙則殿
 二〇〇、〇〇〇 雨宮安左衛門殿
 二〇〇、〇〇〇 奥山 茂殿
 二〇〇、〇〇〇 志村 玄誓殿
 二〇〇、〇〇〇 小林 中殿
 二〇〇、〇〇〇 平野 政勝殿
 一〇〇、〇〇〇 村松 甚藏殿
 一〇〇、〇〇〇 中込六之助殿
 一〇〇、〇〇〇 中村 長榮殿
 一〇〇、〇〇〇 飯野 清重殿
 一〇〇、〇〇〇 小林 はつ殿
 一〇〇、〇〇〇 深澤 良輔殿
 一〇〇、〇〇〇 淺川 國雄殿
 八〇、〇〇〇 渡瀬源之助殿
 五〇、〇〇〇 金丸親太郎殿
 五〇、〇〇〇 志村 彦助殿
 五〇、〇〇〇 三井 吉造殿

坂野富吉殿○中村勝治殿○松下喜藏
 殿○皆川四郎殿○岸孫藏殿○町田直
 殿○木島忠雄殿○櫻田市彌殿○神尾
 治兵衛殿○鈴木昂殿○星野傳殿
 五拾錢宛
 會田勘右衛門殿○田村進雄殿○山村
 寛次郎殿○田中芳尾殿○村上於和殿
 ○加藤昌殿○菅淺治殿○阿部善勝殿

三〇、〇〇	中澤三鶴平殿	一五〇、〇〇	高橋誠太郎殿	三〇、〇〇	田中萬太郎殿	一〇、〇〇	岩本 庄吉殿	五、〇〇	大鐘喜久三殿
三〇、〇〇	高井猪三郎殿	一〇〇、〇〇	三橋四郎次殿	三〇、〇〇	鈴木 幾吉殿	一〇、〇〇	矢澤久右衛門殿	五、〇〇	若杉 藤七殿
三〇、〇〇	伊東喜次郎殿	一〇〇、〇〇	木下 七郎殿	三〇、〇〇	鈴木八郎左衛門殿	一〇、〇〇	山田 莞爾殿	五、〇〇	平尾 久晴殿
二五、〇〇	牧野花太郎殿	一〇〇、〇〇	山田實太郎殿	三〇、〇〇	原木 禮一殿	一〇、〇〇	望月大太郎殿	五、〇〇	豊田富士雄殿
二〇、〇〇	鈴木 惠淳殿	一〇〇、〇〇	井田信太郎殿	三〇、〇〇	久野清左衛門殿	一〇、〇〇	合月 幸吉殿	三圓宛	
二〇、〇〇	石井丑太郎殿	一〇〇、〇〇	望月 謹弼殿	三〇、〇〇	杉山德治郎殿	一〇、〇〇	鹽崎爲十郎殿	磯野新藏殿	木南又治殿
二〇、〇〇	長沼熊太郎殿	一〇〇、〇〇	内田賢之助殿	三〇、〇〇	大石虎之助殿	一〇、〇〇	大石 廉一殿	殿	藤下憲治殿
一五、〇〇	天野 斌殿	一〇〇、〇〇	脇田 信吾殿	三〇、〇〇	中島 省一殿	一〇、〇〇	上村 久夫殿	沼邦策殿	寺田市十殿
一五、〇〇	藤本恒太郎殿	九〇、〇〇	太田 八郎殿	三〇、〇〇	戸田 卓殿	一〇、〇〇	山内與十郎殿	二圓宛	北川米夫殿
一〇、〇〇	照原 珠殿	五〇、〇〇	井上新太郎殿	二〇、〇〇	橋本 米吉殿	一〇、〇〇	大川欣也殿	時田長七殿	長谷川清七殿
一〇、〇〇	富川市五郎殿	五〇、〇〇	萩原 民治殿	二〇、〇〇	安達兼太郎殿	一〇、〇〇	杉本彦次郎殿	太郎殿	石川房次郎殿
五、〇〇	平井兼三郎殿	五〇、〇〇	齋藤 宇八殿	二〇、〇〇	常盤 萬吉殿	一〇、〇〇	大和 宇平殿	殿	加藤彌作殿
五、〇〇	梅本德治郎殿	五〇、〇〇	齋藤 策正殿	二〇、〇〇	杉井 榮雄殿	一〇、〇〇	池田 春吉殿	作次郎殿	坪井敬司殿
五、〇〇	天野德太郎殿	五〇、〇〇	松本勘次郎殿	二〇、〇〇	渡邊 圓平殿	一〇、〇〇	望月 文雄殿	殿	富藤常吉殿
五、〇〇	三枝 正重殿	五〇、〇〇	高田安太郎殿	二〇、〇〇	小塚竹次郎殿	五、〇〇	岩波 清平殿	殿	佐野うめ殿
五、〇〇	天野 久殿	五〇、〇〇	伊藤 友雄殿	二〇、〇〇	八木長之助殿	五、〇〇	松浦久太郎殿	昌殿	桃林堂殿
五、〇〇	天野 文平殿	五〇、〇〇	金原 武雄殿	二〇、〇〇	丸山作次郎殿	五、〇〇	山本 善吉殿	一、五〇	岩本 宗作殿
五、〇〇	小林 寛造殿	五〇、〇〇	美輪平八郎殿	一五、〇〇	田中 治郎殿	五、〇〇	渡邊 傳藏殿	一圓宛	
五、〇〇	小林 良平殿	五〇、〇〇	伊藤 市平殿	一五、〇〇	名波義三郎殿	五、〇〇	篤志 家殿	川村己一殿	鷺坂本太郎殿
五、〇〇	小林 孝正殿	五〇、〇〇	北原 觀朗殿	一〇、〇〇	小林 博殿	五、〇〇	吉見 養資殿	邦殿	伏見督太郎殿
五、〇〇	今泉 兼松殿	五〇、〇〇	岩本信之助殿	一〇、〇〇	渡邊治之助殿	五、〇〇	鳥居 政幸殿	〇大溝つる子殿	〇石井千代殿
五、〇〇	今井金七郎殿	五〇、〇〇	吉野 重松殿	一〇、〇〇	杉山 周藏殿	五、〇〇	野崎 鯨一殿	〇藏殿	〇佐々木德次郎殿
五、〇〇	今村 種治殿	五〇、〇〇	大畑 増雄殿	一〇、〇〇	山本平三郎殿	五、〇〇	大林 利治殿	〇梅林幸太郎殿	〇杉山茂殿
三圓宛			中野 龍彦殿	一〇、〇〇	淺井熊太郎殿	五、〇〇	北村 勝藏殿	一殿	〇木村新一殿
			片山七兵衛殿	一〇、〇〇	中島 茂光殿	五、〇〇	司馬 鼎甫殿	長田龜之助殿	〇石橋武一殿
			新間嘉久一殿	一〇、〇〇	大石小一郎殿	五、〇〇	成島 道統殿	義殿	〇島崎庄作殿
			笹野甚四郎殿	一〇、〇〇	水野 英一殿	五、〇〇	岡田 大三殿	與市一殿	〇鈴木寛殿
			林 顯三殿	一〇、〇〇	森田清三郎殿	五、〇〇	松村竹次郎殿	五拾錢宛	〇澗川
			加藤 弘造殿	一〇、〇〇	川田 謙三殿	五、〇〇	杉原 市藏殿	村上とし殿	〇大石茂殿
			八木 覺二殿	一〇、〇〇	齋藤 正雄殿	五、〇〇	淺原金太郎殿	〇鈴木金平殿	
			中村圓一郎殿	一〇、〇〇	大石 周平殿	五、〇〇	寺田德太郎殿		
			岡崎 潤殿	一〇、〇〇	武田敬一郎殿	五、〇〇	加藤 重之殿		
			三輪 笹市殿	一〇、〇〇	永野 松藏殿	五、〇〇			

静岡縣

愛知縣

松田清藏殿○坂本泉殿
 五拾錢宛
 一、〇〇 松野 秋雄殿

村上とし殿○大石茂殿○鈴木金平殿
 五拾錢宛

山内清一郎殿
 中山 均殿
 村越 齊殿

田口 百三殿
 紅村清之助殿

新潟縣

二〇〇、〇〇 西卷兵一郎殿
二〇〇、〇〇 板垣友次郎殿
一五〇、〇〇 片桐 博二殿
一〇〇、〇〇 齋藤 英二殿
五〇、〇〇 內山 濟三殿
五〇、〇〇 小竹 浩殿
五〇、〇〇 小林達四郎殿
五〇、〇〇 內山 省吾殿
五〇、〇〇 遠藤 隆春殿
五〇、〇〇 本間 氏弘殿
五〇、〇〇 朝倉 文次殿
五〇、〇〇 矢口久右衛門殿
三〇、〇〇 磯部 和吉殿
三〇、〇〇 藤崎 三郎殿
三〇、〇〇 佐野 辰三殿
三〇、〇〇 角谷勝次郎殿
三〇、〇〇 五十嵐忠治殿
二〇、〇〇 本田 鎌二殿
二〇、〇〇 大谷友次郎殿
一五、〇〇 三堀 鎌二殿
一〇、〇〇 內山末一郎殿
一〇、〇〇 宮原 賢二殿
一〇、〇〇 北村 ハナ殿
一〇、〇〇 服部竹之助殿
一〇、〇〇 山本與一郎殿
一〇、〇〇 本田 豐造殿
一〇、〇〇 蒲原 靈性殿
一〇、〇〇 前田 周治殿
五〇、〇〇 高橋 源一殿
五〇、〇〇 小川 シゲ殿
五〇、〇〇 阿部吉太郎殿

五、〇〇 本田悌次郎殿
三圓宛 野村由平殿○今井貞四郎殿○吉田義一殿○保菊徳七殿
貳圓宛 和田嘉平殿○片田みよ殿○井上淺藏殿○小幡包次郎殿○齋藤隆太郎殿○小菅與一郎殿○尾崎喜作殿○阿部心○殿○長沼仲造殿
一五〇 登圓宛 田村貞次殿○高橋半左衛門殿○高橋喜久次殿○白井金倍殿○星野マツ殿
大關由造殿○佐々木綱男殿○巻口榮一殿○山里彌平次殿○土田林吾殿○丸山仁太郎殿○廣井清殿○金子信治郎殿○笠原長吉殿○荒城市郎殿
七〇 川瀬 東吾殿
五拾錢宛 苜部英太郎殿○布施平作殿○早川利一殿○徳間直次殿○中條米義殿○押木喜助殿○石井幸吉殿○鈴木萬助殿
正誤 (前號)東京府ヲ部
四〇二、三〇 早大學生音樂會長
岡市開演純益金トアルハ
早稻田大學長岡中越校友會
ニ訂正

富山縣

一、五〇〇、〇〇 金岡又右衛門殿
一、四〇〇、〇〇 米田元吉郎殿
八〇〇、〇〇 米澤 元貞殿
四〇〇、〇〇 菅池 清一殿

三三〇、〇〇 米澤 元健殿
三〇〇、〇〇 西田源次 殿
二〇〇、〇〇 竹内 省三殿
二〇〇、〇〇 三谷長太郎殿
一五〇、〇〇 伊東 達二殿
一五〇、〇〇 五十嵐嘉行殿
一五〇、〇〇 本間清一郎殿
一〇〇、〇〇 小澤 隆一殿
一〇〇、〇〇 翁 源指殿
一〇〇、〇〇 竹内 啓三殿
一〇〇、〇〇 谷野 善成殿
一〇〇、〇〇 片口安太郎殿
一〇〇、〇〇 老田伊三郎殿
八〇、〇〇 今村 喜作殿
六〇、〇〇 寺島邦太郎殿
六〇、〇〇 板井吉次郎殿
六〇、〇〇 宮野 みつ殿
五〇、〇〇 小澤理右衛門殿
五〇、〇〇 田中清五郎殿
五〇、〇〇 吉山 岩雄殿
五〇、〇〇 金森 寛治殿
三〇、〇〇 辻 武夫殿
三〇、〇〇 堀 久正殿
三〇、〇〇 安井 忠重殿
三〇、〇〇 老田 松藏殿
三〇、〇〇 桑守 的了殿
二〇、〇〇 黒田銀次郎殿
二〇、〇〇 坂井庄次郎殿
一五、〇〇 片山松治郎殿
一五、〇〇 結城孫四郎殿
一〇、〇〇 玉生 專次殿
一〇、〇〇 毛利市三郎殿
一〇、〇〇 田崎 財治殿

一〇、〇〇 稻垣藤兵衛殿
一〇、〇〇 吉田 和平殿
一〇、〇〇 阿波 加蕃殿
一〇、〇〇 吉川 良平殿
一〇、〇〇 小西 眞清殿
一〇、〇〇 牛丸滋太郎殿
一〇、〇〇 寺本 神洞殿
一〇、〇〇 平尾 潤元殿
五、四〇 阿部孫十郎殿
五、〇〇 阿部孫太郎殿
五、〇〇 大菅四郎右衛門殿
五、〇〇 佐野 國實殿
五、〇〇 平田保太郎殿
五、〇〇 小西 章臣殿
五、〇〇 千田 安平殿
五、〇〇 小池 善藏殿
五、〇〇 寺田仙之助殿
五、〇〇 橋爪秀太郎殿
五、〇〇 川崎 順二殿
五、〇〇 清水安五郎殿
五、〇〇 村杉 靜夫殿
五、〇〇 摩島 嘉造殿
五、〇〇 廣島友次郎殿
五、〇〇 平野 源藏殿
五、〇〇 高島恒次郎殿
五、〇〇 大浦與七郎殿
五、〇〇 酒井 一郎殿
五、〇〇 仲井 太重殿
五、〇〇 片口 安松殿
五、〇〇 黒川宗十郎殿
五、〇〇 蘆谷憲二郎殿

義周殿○上瀧青年修養會殿○庄司幸吉殿
貳圓宛 若林靜太郎殿○井澤半兵衛殿○中川義忠殿○荒尾榮次郎殿○橋爪康吉殿
玉生庄之助殿○谷井忠藏殿○鈴木重吉殿○太田豐次郎殿○清水寅次郎殿
結城幸次殿
壹圓五十錢宛 堀健太郎殿○吉友文次郎殿
壹圓宛 岡與太次郎殿○大西方郎殿○阿部令三殿○高橋正雄殿○宮島正久殿○宇尾孝太郎殿○平野市太郎殿○益山虎吉殿○五十嵐忠治殿○大友甚七殿○毛利傳三郎殿○今榮松次郎殿○田中又五郎殿○西田堂殿○杉山正太郎殿
石戸松次郎殿○吉友良太郎殿○荒井章楷殿○若松次郎殿○福山松次郎殿○松本良之助殿○宮田和三郎殿○江本信好殿○片口作次郎殿○谷口宗次郎殿○井利豐次郎殿○古川松太郎殿○野村勝次郎殿○越野作次郎殿○淺野豐二殿○畔田小七郎殿○柴田彌三治殿○淺田七郎殿○中川政次殿○原井清一郎殿○堺コト殿○中塚長之助殿○上田金次郎殿○荒井伊次郎殿
藤田伊三郎殿○山崎長藏殿○高田武雄殿○浦上直枝殿○稻垣久直殿○高島城殿○松澤隆尙殿○有倉榮作殿○安川與三右衛門殿
五拾錢宛 佐賀ツヨ殿○吉川幸之助殿○杉江清

一〇、〇〇	垣本 義憲殿	一〇、〇〇	森永 猶藏殿
一〇、〇〇	今中定治郎殿	一〇、〇〇	矢田 英一殿
一〇、〇〇	森井庄二郎殿	一〇、〇〇	石田 馨殿
一〇、〇〇	阪上 重知殿	一〇、〇〇	松井 忠夫殿
一〇、〇〇	中井 榮吉殿	一〇、〇〇	田中元三郎殿
一〇、〇〇	井上新五郎殿	九、〇〇	〔小林 榮吉殿 中村保次郎殿〕
一〇、〇〇	中野正太郎殿	上野町大字忍町總代	
一〇、〇〇	森永 定男殿	上野町大字忍町總代	
一〇、〇〇	安倍多計志殿	上野町大字忍町總代	
一〇、〇〇	稻垣久米藏殿	七、〇〇	〔福井 清八殿 山川金次郎殿〕
一〇、〇〇	川島 貞介殿	上野町大字愛宕代表者	
一〇、〇〇	山崎 正藏殿	六、〇〇	井上武五郎殿
一〇、〇〇	奧地三十男殿	上野町大字車阪町總代	
一〇、〇〇	富井鹿之助殿	六、〇〇	須川 惣助殿
一〇、〇〇	吉元 正直殿	六、〇〇	福越丑之助殿
一〇、〇〇	小西 米藏殿	五、〇〇	廣山長太郎殿
一〇、〇〇	辻本 嘉藏殿	五、〇〇	山本 茂殿
一〇、〇〇	小川清太郎殿	五、〇〇	町野 繩吉殿
一〇、〇〇	山崎柳太郎殿	上野町大字桑町代表者	
一〇、〇〇	龜井 曉殿	五、〇〇	米田傳三郎殿
一〇、〇〇	森岡千太郎殿	上野町大字中町代表者	
一〇、〇〇	重藤 久光殿	五、〇〇	藪内燕次郎殿
一〇、〇〇	城 勇殿	五、〇〇	菊山 種男殿
一〇、〇〇	喜多正次郎殿	五、〇〇	古 久郎殿
一〇、〇〇	岩名 秀松殿	五、〇〇	服部本二郎殿
一〇、〇〇	新 芳三郎殿	五、〇〇	森川佐兵衛殿
一〇、〇〇	島岡 衛殿	五、〇〇	福山 稔殿
一〇、〇〇	新 佐 業殿	五、〇〇	西村 安隆殿
一〇、〇〇	前田光之介殿	五、〇〇	福持善之丞殿
一〇、〇〇	中尾 孫七殿	五、〇〇	山本 謨殿
一〇、〇〇	山中 實殿	五、〇〇	大井 繁藏殿
一〇、〇〇	壺田孝之助殿	五、〇〇	土山卯之助殿
一〇、〇〇	松島 團治殿	五、〇〇	

五、〇〇	太田 祐三殿	上野町幸坂町總代	
四、六五	森永 豐吉殿	四圓宛	
上野町大字車町惣代留井小八郎殿			
上野町大學惠美須町惣代曾我龜平殿			
三圓五十錢宛			
上野町大字紺屋町惣代殿			
小玉町總代吉住總太郎殿			
三圓宛			
瀧原勝之助殿			
川口和太郎殿			
二圓五十宛			
上野町馬苦勞町惣代中野武助殿			
野町向島町惣代種村甚助殿			
二圓宛			
森川午造殿			
岡町榮吉殿			
端町惣代越知清次郎殿			
瀧忠郎殿			
荒木半之助殿			
上野町萬町惣代安場			
伊太郎殿			
上野町新地惣代中井仁藏			
殿			
武田鎌吉殿			
西村彌五郎殿			
安 屋喜内殿			
上野町大學福居町惣代殿			
上野町德居町惣代乾伊平殿			
上野町			
西ノ丸惣代關二郎殿			
中島秀郎殿			
一圓五十錢宛			
上野町寺町總代太田勇吉殿			
上野町			
裏町總代武田熊吉殿			
同町西日南町			
總代荒木安太郎殿			
同町相生町總代			
殿			
同町池町總代殿			
尾崎有恒殿			
一圓宛			
池村定一殿			
中村伊三郎殿			
加藤彌			
左衛門殿			
福井源松殿			
竹田三之助			

五〇、〇〇	殿	柴高萬治郎殿	黃瀬信夫殿	相
四五、〇〇	樂久藏殿	内田喜代藏殿	上野片原	
參〇、〇〇	町總代奥井金重郎殿	伊藤市太郎殿		
參〇、〇〇	相賀森藏殿	上野町鐵砲町總代小澤		
參〇、〇〇	淺次郎殿	印代安五郎殿	上田庄吉	
參〇、〇〇	殿	服部市次郎殿	植地歳一殿	中
參〇、〇〇	井勝次郎殿	土井隆殿		
五十錢宛				
上村仲次郎殿		白木要人殿	藪内ひ	
で殿		岡野贊平殿	鈴木七五郎殿	
吉澤みさを殿		伴みや殿	垣内たみ	
殿		太田としる殿	大川うめ殿	太
田しづる殿		小掠ならの殿	仲とく	
へ殿		井上つるる殿		

和歌山縣

二〇〇、〇〇	小泉 米藏殿	成川 四郎殿
一〇〇、〇〇	南 楠太郎殿	岩橋喜次郎殿
一〇〇、〇〇	高松市次郎殿	中島常三郎殿
一〇〇、〇〇	山口 定吉殿	高松徳右衛門殿
一〇〇、〇〇	佐古善之助殿	垂井清右衛門殿
一〇〇、〇〇	谷口莊三郎殿	村井徳太郎殿
一〇〇、〇〇	明樂包次郎殿	紀伊尋常小學校殿
一〇〇、〇〇	島 左吉殿	木本 延楠殿
一〇〇、〇〇	山本源次郎殿	島 邦長殿
一〇〇、〇〇	田村 和夫殿	中村愛三郎殿
一〇〇、〇〇	木本安太郎殿	松本槌太郎殿
一〇〇、〇〇	福井 重助殿	上山 のぶ殿
一〇〇、〇〇	花岡 芳期殿	宮本 永吉殿
一〇〇、〇〇	伊藤 寛殿	宮本八郎右衛門殿
一〇〇、〇〇	安井 禎夫殿	上野山永之助殿
一〇〇、〇〇	前田和三郎殿	楠本忠太郎殿
		川口 次助殿
		川永尋常高殿
		等小學校殿
		辻岡彦太夫殿
		岩橋喜宮一殿
		岩橋 宜雄殿
		木下 何平殿
		木下政十郎殿
		濱口 彰太殿
		前田 龜吉殿
		玉置傳三郎殿
		川崎 彦一殿
		田幡 義秋殿
		栗本楠太郎殿
		脇田禎一郎殿
		火伏 郁造殿
		三木惣太郎殿

三〇、〇〇	瀨山 良一殿	五、〇〇	渡邊 玲子殿
三〇、〇〇	柿崎 嘉男殿	五、〇〇	渡邊 賢作殿
三〇、〇〇	岡崎 主計殿	五、〇〇	淺田 しの殿
三〇、〇〇	福井 玄郎殿	五、〇〇	保田 正巳殿
三〇、〇〇	伊藤 正文殿	五、〇〇	龜井 英一殿
三〇、〇〇	樋口 卯太郎殿	五、〇〇	寺西進次郎殿
二〇、〇〇	岸本 丑松殿	五、〇〇	井戸安次郎殿
二〇、〇〇	福田道之助殿	五、〇〇	八木新太郎殿
二〇、〇〇	諏訪 直夫殿	五、〇〇	池田 達吉殿
二〇、〇〇	土井 哲夫殿	五、〇〇	七尾 滿佐殿
二〇、〇〇	山内富之助殿	三圓宛	
二〇、〇〇	太田 雄三殿	鈴木千代三殿	和田義一殿
二〇、〇〇	小川奈良三郎殿	二圓宛	
一五、〇〇	岡田留三郎殿	藤本昇殿	山中宇一郎殿
一〇、〇〇	佐々木安一殿	殿	藤井喜太郎殿
一〇、〇〇	吉田 萬治殿	本實藏殿	竹村彦太郎殿
一〇、〇〇	木村 美治殿	殿	河田種次郎殿
一〇、〇〇	奥村芳太郎殿	一圓五十錢宛	
一〇、〇〇	吉年宗兵衛殿	吉見勇三殿	松田治吉郎殿
一〇、〇〇	吉村 虎三殿	一圓宛	
一〇、〇〇	和田 達源殿	西正雄殿	中澤茂一殿
一〇、〇〇	瀨山晴太郎殿	飯高かく殿	寺西忠文殿
一〇、〇〇	吉田 通治殿	一良殿	辻長造殿
一〇、〇〇	船津 傳次殿	高定爾殿	井上福造殿
一〇、〇〇	國田彌之輔殿	下仲幸貫殿	福山榮殿
一〇、〇〇	大野 規吉殿	郎殿	海野唯逸殿
五、〇〇	矢部 早藏殿	島文男殿	仲間照一殿
五、〇〇	星野德太郎殿	西川吉太郎殿	北川捨三殿
五、〇〇	萩原吉太郎殿	二郎殿	山下久四郎殿
五、〇〇	竹村 一正殿	嵯峨根信一殿	桑野捨三殿
五、〇〇	竹村久三郎殿	仁太殿	松田清治殿
五、〇〇	和田榮治良殿	松田良三殿	太田豊次殿
五、〇〇	和田儀兵衛殿	殿	前池岩吉殿

二〇、〇〇	齋治殿	川勝康次殿	竹村豊殿	安
二〇、〇〇	城正玄殿	竹村虎太郎殿	岸本米吉	
二〇、〇〇	郎殿	六十	井上嘉太郎殿	
二〇、〇〇	五十錢宛			
二〇、〇〇	岩崎誠殿	正木新造殿	藤本數一	
二〇、〇〇	殿	片岡音五郎殿	北澤政子殿	阪
二〇、〇〇	本正殿	村井勝太郎殿	青木康三郎	
二〇、〇〇	殿	橋本與一郎殿	出井才太郎殿	
二〇、〇〇	岩佐慶三殿			
二〇、〇〇	正・誤			
二〇、〇〇	前號兵庫縣ノ部			
二〇、〇〇	岸 節造殿			
二〇、〇〇	西久保 宏殿			
二〇、〇〇	平木 狗平殿			
二〇、〇〇	右八何レモ大阪府ノ部ニ訂正			
二〇、〇〇	兵庫縣			
二〇、〇〇	中村 準策殿			
二〇、〇〇	殿界 榮吉殿			
二〇、〇〇	小野 修吉殿			
二〇、〇〇	河上 謹一殿			
二〇、〇〇	中島勘次郎殿			
二〇、〇〇	越川福太郎殿			
二〇、〇〇	關谷芳太郎殿			
二〇、〇〇	鈴木 四郎殿			
二〇、〇〇	松村 榮子殿			
二〇、〇〇	大村 清殿			
二〇、〇〇	丸尾 光春殿			
二〇、〇〇	畑 市之亮殿			
二〇、〇〇	官本 正夫殿			
二〇、〇〇	磯田 恭隆殿			

六〇、〇〇	鷺見 歸一殿		
六〇、〇〇	倉持 一郎殿		
六〇、〇〇	尾崎 雅次殿		
五〇、〇〇	紙谷 章治殿		
五〇、〇〇	池田 太輔殿		
五〇、〇〇	森 九十郎殿		
五〇、〇〇	仲野 鷹雄殿		
五〇、〇〇	結城恂太郎殿		
五〇、〇〇	柴田繁治郎殿		
四〇、〇〇	天野 安二殿		
四〇、〇〇	松隈 一殿		
四〇、〇〇	玉江 文雄殿		
三五、〇〇	上野 資鎮殿		
三五、〇〇	菅原 二郎殿		
三五、〇〇	舟戸 武雄殿		
三五、〇〇	森田 信一殿		
三五、〇〇	佐々木代三殿		
三五、〇〇	竹中 虎司殿		
三五、〇〇	北島 一郎殿		
三五、〇〇	瀨田 誠殿		
三五、〇〇	長岡 義雄殿		
二〇、〇〇	小笹力之助殿		
二〇、〇〇	岡 織吉殿		
二〇、〇〇	池田 音一殿		
二〇、〇〇	小西 嘉吉殿		
二〇、〇〇	赤穂谷豊一殿		
二〇、〇〇	宮田武一郎殿		
二〇、〇〇	木谷宇三郎殿		
二〇、〇〇	水島 重吉殿		
二〇、〇〇	柴田 音吉殿		
二〇、〇〇	江見 誠矣殿		
二〇、〇〇	織田 正澄殿		
二〇、〇〇	倉田 淺吉殿		

一〇、〇〇	三村卓爾殿	戸田敏博殿	辻恭平殿
一〇、〇〇	久山泰殿	船屯鶴殿	長田康行殿
一〇、〇〇	志水貞一殿	井上善太郎殿	
一〇、〇〇	二圓宛		
一〇、〇〇	寺田梅治郎殿	牛野辰一殿	呼氣篤
一〇、〇〇	三郎殿	藤田靜子殿	齋藤博殿
一〇、〇〇	田光章殿	廣瀬恭輔殿	福岡勇殿
一〇、〇〇	長谷川治作殿	山口榮太郎殿	野村
一〇、〇〇	作治郎殿	松本唯雄殿	上谷衆造殿
一〇、〇〇	小林榮治殿	美野敬直殿	吉田芳
一〇、〇〇	太郎殿	松田正三殿	木南三千三殿
一〇、〇〇	稻竹熊太郎殿	山本作次殿	
一〇、〇〇	一圓宛		
一〇、〇〇	竹田茂殿	木村武男殿	西山勝次殿
一〇、〇〇	村田傳而殿	音山松次郎殿	川合
一〇、〇〇	忠次郎殿	宮村シス子殿	山田末治
一〇、〇〇	殿	加納喜代次殿	角南敬祐殿
一〇、〇〇	田太三郎殿	竹内幸治殿	大庭哲郎
一〇、〇〇	殿	江見貞殿	竹内儀太郎殿
一〇、〇〇	昌樹殿	野村敬三殿	横山新之助殿
一〇、〇〇	殿	船引寛通殿	大野彌吉殿
一〇、〇〇	殿	服部五市殿	船引守一殿
一〇、〇〇	殿	殿	西脇清遠殿
一〇、〇〇	殿	殿	石原彌太郎殿

○岩井八三郎殿○增井常七殿○貴傳名互殿○石田増次殿○青海龍介殿
 一、五〇 木村 利吉殿
 一、〇四 綱谷 芳一殿
 五十錢宛
 森八郎殿○岩本一二三殿○高階正雄殿○西田俊一殿○杵築侃雄殿

岡山縣

一〇、〇〇 中塚元太郎殿
 五、〇〇 平松由左衛門殿
 五、〇〇 柏原 良一殿
 五、〇〇 澤木 龜一殿
 貳圓宛
 三宅壽平殿○川上孝一殿○塚本張馬殿○中村喜四郎殿
 壹圓五拾錢
 柳本良松殿

壹圓宛
 笠原半右衛門殿○今井一郎殿○佐々木三郎二殿○三宅喜一殿○佐藤治太殿○星原孝勇殿○淺野勇藏殿○矢吹豐太殿○佐藤京一殿○瀧川嘉作殿○原田武太郎殿○原田寛太郎殿○鳥越利一郎殿○瀧木正殿
 五十錢宛
 岡崎武之殿○梶並滿州雄殿

廣島縣

二〇〇、〇〇 原田 端造殿
 二〇〇、〇〇 川妻德次郎殿
 二〇〇、〇〇 宮富 賢三殿

一五、〇〇〇	和氣清太郎殿	五〇、〇〇	梶川喜三次殿
一二〇、〇〇〇	村上 知祥殿	五〇、〇〇	高垣 太郎殿
一〇〇、〇〇〇	木村久次郎殿	二〇、〇〇	淺岡 幸吉殿
一〇〇、〇〇〇	桐原 秀吉殿	一〇、〇〇	山崎 千代殿
一〇〇、〇〇〇	北山 春子殿	一〇、〇〇	川島 醇一殿
一〇〇、〇〇〇	中村 清一殿	一〇、〇〇	伊達小三郎殿
一〇〇、〇〇〇	高東 有博殿	一〇、〇〇	井上 和八殿
一〇〇、〇〇〇	井東外次郎殿	一〇、〇〇	山内 英夫殿
一〇〇、〇〇〇	三木 平藏殿	五、〇〇	安原米太郎殿
一〇〇、〇〇〇	高地 司郎殿	五、〇〇	石部林太郎殿
一〇〇、〇〇〇	玉國 恒二殿	五、〇〇	柏原四郎九殿
一〇〇、〇〇〇	垣本健三郎殿	五、〇〇	望戸 虎祐殿
一〇〇、〇〇〇	安藤 寛殿	參圓宛	
一〇〇、〇〇〇	小田 三郎殿	吉田茂左衛門殿○安本榮一郎殿	
一〇〇、〇〇〇	米田 鶴平殿	貳圓宛	
一〇〇、〇〇〇	佐々木京進殿	八木龜次郎殿○竹田新市殿○宇田彦三郎殿○佐々木平五郎殿○繩雅常治郎殿○占部兼松殿○大石壽人殿○階坂戸嘉惣治殿	
一〇〇、〇〇〇	比留間子郎殿	川勝次郎殿○島田奈良吉殿	
七五、〇〇〇	村上 雋夫殿	壹圓五拾錢	
六〇、〇〇〇	渡邊 源太殿	前 佐一郎殿	
六〇、〇〇〇	鶴池 五郎殿	壹圓宛	
六〇、〇〇〇	堀田 詰吉殿	峰松一夫殿○河野猛殿○村上祝一殿	
六〇、〇〇〇	中西 熊七殿	○水野久愛殿○西森榮殿○梶村德教	
六〇、〇〇〇	宗 兼 德殿	殿○瀨原鐵雄殿○松村要殿○島山孝一殿○大伸武士殿○小林武市殿○繩雅照次郎殿○繩雅鶴吉殿○祖士四郎	
六〇、〇〇〇	淺岡 幸吉殿	右衛門殿○高橋一士殿○黑瀬富太郎	
五〇、〇〇〇	長谷川榮一郎殿	殿○坂本寅三殿○大高育三殿	
五〇、〇〇〇	吉田 温殿	五拾錢宛	
五〇、〇〇〇	安清 正之殿	秋山長一殿○加登涉殿○松永茂殿	
五〇、〇〇〇	松田 慶一殿	正 誤	
五〇、〇〇〇	大町 大作殿	前號)五拾錢	
五〇、〇〇〇	太田 榮次郎殿	楠田 正一殿	
五〇、〇〇〇	太田 正一殿		

山口縣

八金五拾圓=訂正
 五〇、〇〇 風井 晋一殿
 五〇、〇〇 磯村幸太郎殿
 三〇、〇〇 田中 喜三殿
 二〇、〇〇 中村 源衛殿
 二〇、〇〇 貝島 太市殿
 二〇、〇〇 元永 友助殿
 一五、〇〇 桂 竹二郎殿
 一〇、〇〇 林 三ノ殿
 一〇、〇〇 熊谷 少間殿
 一〇、〇〇 俵田 克巳殿
 一〇、〇〇 名和田哲郎殿
 一〇、〇〇 宮本 太一殿
 一〇、〇〇 榎本 久一殿
 五、〇〇 堀 清平殿
 五、〇〇 上原 乙治殿
 五、〇〇 橋田 茂平殿
 五、〇〇 藤井源左衛門殿
 高良 四郎殿
 貳圓宛
 堀喜代彦殿○中島政忠殿
 一、七〇 鹽田小學校職員五名殿
 壹圓宛
 山本順一殿○酒井米一殿○前原陸太殿○森岡壽一殿○中山内匠殿○藤井治作殿○木村司馬太殿

鳥取縣

一〇〇、〇〇 杉谷虎太郎殿
 五〇、〇〇 本池 榮殿

島根縣

懸樋清治殿○岡本英一殿
 一圓宛
 森元仙春殿○三上茂殿
 八〇 渡部 常吉殿
 五〇 中木 善雄殿

德島縣

一〇、〇〇 湯淺宗一郎殿
 壹圓宛
 荒木太志津殿○絲川一紅殿○平瀬金藏殿

香川縣

一〇〇、〇〇 鎌田勝太郎殿
 二〇、〇〇 大喜多三郎殿
 二〇、〇〇 下津 揆殿
 二〇、〇〇 鹽田 良一殿
 二〇、〇〇 中村 祐吉殿
 二〇、〇〇 湊 力藏殿
 二〇、〇〇 石井 宗次殿
 一〇、〇〇 木村彌代二殿
 九〇、〇〇 増田 正三殿
 六〇、〇〇 堤 潤藏殿
 六〇、〇〇 武田善太郎殿
 六〇、〇〇 芳谷 彌平殿
 五〇、〇〇 久保田久太郎殿
 五〇、〇〇 杉山 利一殿

五〇、〇〇 大西 正孝殿
 五〇、〇〇 三野嘉吉郎殿
 五〇、〇〇 明石作之助殿
 五〇、〇〇 松岡 龜亮殿
 三〇、〇〇 秋山 仁平殿
 三〇、〇〇 山下 一二殿
 三〇、〇〇 出口 國雄殿
 二五、〇〇 鈴木 次郎殿
 二一、〇〇 藤田利三郎殿
 二〇、〇〇 藤村 五郎殿
 二〇、〇〇 岡内 清太殿
 二〇、〇〇 上原澤太郎殿
 二〇、〇〇 井上 輔人殿
 一五、〇〇 平岩照治郎殿
 一〇、〇〇 松島 勝輔殿
 一〇、〇〇 大野 元一殿
 一〇、〇〇 上谷彦左衛門殿
 一〇、〇〇 岩部榮太郎殿
 一〇、〇〇 中島 雄三殿
 一〇、〇〇 合田 恒三殿
 一〇、〇〇 田中 甚造殿
 一〇、〇〇 高橋長太郎殿
 一〇、〇〇 大喜多滿壽治殿
 一〇、〇〇 久保田ハル工殿
 五、〇〇 豐田 芳郎殿
 五、〇〇 三木 立夫殿
 五、〇〇 合田 隆太殿
 五、〇〇 合田貞五郎殿
 五、〇〇 石川自治夫殿
 五、〇〇 原 彦太郎殿
 三圓宛
 安藤義孝殿○大喜多吉良殿○大木次郎殿

高知縣

一〇、〇〇 市川善太郎殿
 六、〇〇 福島 利市殿
 三圓宛
 小島啓市殿○野町順馬殿
 一、〇〇 廣瀬和多留殿
 五〇 栗井 守利殿

愛媛縣

一〇〇、〇〇 川籍 豐彦殿
 六〇、〇〇 清家彦右衛門殿
 五〇、〇〇 中平常太郎殿
 五〇、〇〇 物部 常樹殿
 五〇、〇〇 居村 綱教殿
 三〇、〇〇 朝家萬太郎殿
 三〇、〇〇 京屋彦太郎殿
 三〇、〇〇 榎本 源藏殿
 二〇、〇〇 鳥羽右兵衛殿
 一〇、〇〇 宮本 久雄殿
 一〇、〇〇 菊地昇二郎殿
 一圓宛
 三好千太郎殿○渡邊清由殿○家藤正殿
 藤森龜雄殿○竹中恒市殿○瀧本殿
 常一殿○鎌倉セツ殿○大久保清一殿
 〇谷口清勝殿
 五拾錢宛
 川合雪春殿○岡田松次殿

福岡縣

三〇〇、〇〇 川井 正進殿
 二〇〇、〇〇 丸尾 修殿
 二〇〇、〇〇 堀口 功殿
 二〇〇、〇〇 菊竹 淳殿
 二〇〇、〇〇 三島 藤太殿
 一五〇、〇〇 福田 拓殿
 一五〇、〇〇 谷口豐次郎殿
 一五〇、〇〇 大谷 仁助殿
 一五〇、〇〇 大橋 周治殿
 一五〇、〇〇 戸川 虎殿
 一五〇、〇〇 上田 景助殿
 一三〇、〇〇 川上卯七郎殿
 一〇〇、〇〇 安田兵太郎殿
 一〇〇、〇〇 藤澤文一郎殿
 一〇〇、〇〇 大倉 隆一殿
 一〇〇、〇〇 小川 直熙殿
 一〇〇、〇〇 大和和鶴之助殿
 一〇〇、〇〇 川邊秀太郎殿
 一〇〇、〇〇 相羽 慎吾殿
 一〇〇、〇〇 瀧澤 潛殿
 一〇〇、〇〇 友杉滿壽郎殿
 一〇〇、〇〇 遊田 茂太殿
 一〇〇、〇〇 江崎 傳藏殿
 一〇〇、〇〇 中川 信吾殿
 一〇〇、〇〇 安田 次郎殿
 一〇〇、〇〇 井手 徳一殿
 一〇〇、〇〇 黒木要太郎殿
 一〇〇、〇〇 宮崎秀太郎殿
 一〇〇、〇〇 山田 直臣殿
 一〇〇、〇〇 大坪 又男殿
 一〇〇、〇〇 河波荒次郎殿
 一〇〇、〇〇 篠崎昇之助殿
 一〇〇、〇〇 脇山 惟殿
 六〇、〇〇 栗山 新六殿
 六〇、〇〇 井村 新殿
 六〇、〇〇 田中 直喜殿
 五〇、〇〇 清水忠四郎殿
 五〇、〇〇 土斐崎種壽殿
 五〇、〇〇 安武 九郎殿
 五〇、〇〇 三島 良美殿
 五〇、〇〇 森永 彦三殿
 五〇、〇〇 三隅 忠雄殿
 四五、〇〇 入澤京太郎殿
 三五、〇〇 堀尾 義貴殿
 三五、〇〇 麻生 米吉殿
 三五、〇〇 田原 正太殿
 三五、〇〇 大城谷良文殿
 二〇、〇〇 原 一雄殿
 二〇、〇〇 大槻不二雄殿
 二〇、〇〇 坪根 八郎殿
 二〇、〇〇 田中 齊之殿
 二〇、〇〇 田中 一磨殿
 二〇、〇〇 竹田 雅弘殿
 一〇、〇〇 稻光 榮一殿
 一〇、〇〇 竹内 種雄殿
 五、〇〇 渡邊 綱次殿
 五、〇〇 柳田 四郎殿
 五、〇〇 北野 茂美殿
 三圓宛
 上日出太郎殿○田中喬殿○櫻木芳太殿
 郎殿○山口孫作殿○長澤三郎殿
 二圓宛
 松尾修一殿○白水敏三郎殿○出口吉松殿○藤原九七殿○富永英次郎殿○

長崎縣

一〇〇、〇〇 岡部大次郎殿
 七〇、〇〇 山野透幸家殿
 五〇、〇〇 中津海知幾殿
 五〇、〇〇 東 秀保殿
 五〇、〇〇 石川 宗義殿
 五〇、〇〇 徳永 喜一殿
 五〇、〇〇 谷口 良三殿
 三〇、〇〇 小島 武嗣殿
 三〇、〇〇 青田時次郎殿
 三〇、〇〇 田中 直治殿
 三〇、〇〇 松尾榮三郎殿
 三〇、〇〇 山野透寅雄殿
 三〇、〇〇 川副 綱隆殿
 三〇、〇〇 佐保 畢雄殿
 三〇、〇〇 田代 弘藏殿
 二五〇、〇〇 寺澤 萬三殿
 二〇〇、〇〇 富永 徳美殿
 二〇〇、〇〇 栗岡 利吉殿
 二〇〇、〇〇 若杉種三郎殿
 二〇〇、〇〇 淺田勝次郎殿
 二〇〇、〇〇 宮川彌十郎殿
 宮上敬夫殿○譜井逸馬殿○富永重藏殿○長尾吉三郎殿
 一圓宛
 田中繁殿○森山豐殿○柴田金次郎殿
 〇熊崎正作殿○金子保傳殿○江藤ト殿○田中藤吉殿○守田利雄殿
 七〇 北原 太助殿
 五拾錢宛
 江藤定男殿○長山房雄殿○青木次郎殿

二〇〇、〇〇〇	與崎 定作殿	五〇、〇〇〇	田中 秀穗殿
一五〇、〇〇〇	田代 泰一殿	五〇、〇〇〇	三浦圭一郎殿
一五〇、〇〇〇	金子 美重殿	五〇、〇〇〇	三谷 清一殿
一三〇、〇〇〇	山縣 猛彦殿	五〇、〇〇〇	小嶺 鐵夫殿
一〇〇、〇〇〇	谷口 彌吉殿	三六、〇〇〇	平井 秋里殿
一〇〇、〇〇〇	中村賢之助殿	三六、〇〇〇	立花 寬殿
一〇〇、〇〇〇	辻 弘殿	三六、〇〇〇	岩永 武道殿
一〇〇、〇〇〇	雁住 又明殿	三六、〇〇〇	高橋市太郎殿
一〇〇、〇〇〇	渡邊 繁人殿	三六、〇〇〇	岡部 重記殿
一〇〇、〇〇〇	川原 光次殿	三六、〇〇〇	森川巳代吉殿
一〇〇、〇〇〇	井上 隆一殿	三六、〇〇〇	服部 一治殿
一〇〇、〇〇〇	荻澤安五郎殿	三六、〇〇〇	原口 光利殿
一〇〇、〇〇〇	峰 彌太郎殿	三六、〇〇〇	市來 誠一殿
一〇〇、〇〇〇	瀧田 勇殿	三六、〇〇〇	野澤 一郁殿
一〇〇、〇〇〇	本山 豐治殿	三〇、〇〇〇	村上 英通殿
一〇〇、〇〇〇	青木 榮藏殿	三〇、〇〇〇	高岡 貞甫殿
一〇〇、〇〇〇	川口 俊壽殿	三〇、〇〇〇	野村喜代次殿
一〇〇、〇〇〇	山口 寬殿	三〇、〇〇〇	森 勝林殿
一〇〇、〇〇〇	中田 正輔殿	三〇、〇〇〇	杉野長十郎殿
一〇〇、〇〇〇	板尾伊三郎殿	三〇、〇〇〇	田上 又繁殿
一〇〇、〇〇〇	中條 伴重殿	二〇、〇〇〇	北島 榮助殿
一〇〇、〇〇〇	軍港新聞社殿	二〇、〇〇〇	廣田直三郎殿
一〇〇、〇〇〇	野中猪三郎殿	二〇、〇〇〇	木村 精造殿
一〇〇、〇〇〇	若松 精一殿	二〇、〇〇〇	早津 實殿
一〇〇、〇〇〇	井上 孝殿	二〇、〇〇〇	大田 秀一殿
八〇、〇〇〇	江崎 連殿	二〇、〇〇〇	寺田 定治殿
六〇、〇〇〇	長與 直美殿	一五、〇〇〇	清水 繁三殿
六〇、〇〇〇	伊藤 磐根殿	一五、〇〇〇	田中 房吉殿
六〇、〇〇〇	藤 健輔殿	一五、〇〇〇	川副 千春殿
五〇、〇〇〇	宮本 虎一殿	一五、〇〇〇	納富 勝治殿
五〇、〇〇〇	五郎川信三殿	一五、〇〇〇	中野子良一殿
五〇、〇〇〇	山口 正雄殿	一〇、〇〇〇	宮田 楮殿
五〇、〇〇〇	増本幸之助殿	一〇、〇〇〇	八起 伊吉殿
五〇、〇〇〇	鬼塚 民衛殿		

一〇、〇〇〇	谷口一太郎殿	一〇、〇〇〇	永野 虎龜殿
一〇、〇〇〇	淺井茂太郎殿	一〇、〇〇〇	伊藤 良吉殿
一〇、〇〇〇	大田 喜一殿	五、〇〇〇	太田 喜一殿
三圓宛	牧森彦殿	三圓宛	森勝禮殿
二圓	松本若喜殿		
一圓宛	平山信夫殿		杉山一殿
	〇杉山一殿		〇瀬戸口光一殿
	〇古川良一殿		〇楠木政哉殿
	〇向井秀夫殿		〇田中京太郎殿
五十錢宛	宮崎英一殿		〇上原吾吉殿
一、五〇〇、〇〇〇	新宮 清明殿		
二〇〇、〇〇〇	深川 彌作殿		
一五〇、〇〇〇	野口勘三郎殿		
一〇〇、〇〇〇	宮崎 信八殿		
一〇〇、〇〇〇	深川 七藏殿		
五〇、〇〇〇	本山壯三郎殿		
四〇、〇〇〇	伊東嘉太郎殿		
三〇、〇〇〇	萩原 源吾殿		
一五、〇〇〇	田代 元一殿		
五、〇〇〇	永田關三郎殿		
五、〇〇〇	高柳 啓吾殿		
五、〇〇〇	神宮 久一殿		
五、〇〇〇	山崎 鷹雄殿		
五、〇〇〇	石橋 安一殿		
五、〇〇〇	石橋 マス殿		

佐賀縣

五、〇〇〇	吉田 參策殿	三圓宛	島田大右衛門殿
			〇淵徳一殿
			〇中島岩吉殿
			〇藤本峯吉殿
			〇相賀佐一殿
			〇島内辰一郎殿
			〇松尾多吉殿
			〇伊藤都吉殿
二、〇〇〇	橋口 壽吉殿	壹圓宛	池田政六殿
			〇中村藤一殿
五拾錢宛	川口滋殿		〇橋本朴夫殿
			〇横尾貞次殿
			〇江本新一郎殿
			〇宮崎好松殿
一〇、〇〇〇	石坂 武彦殿		
五、〇〇〇	白石京太郎殿		
二、〇〇〇	松原 善龍殿	一圓五拾錢宛	西村秀喜殿
			〇大村順齋殿
一圓宛	有働吉藏殿		〇小原政一殿
			〇永松素直殿
			〇堤敏男殿
			〇山口進殿
			〇本郷生殿
五〇	櫻本 米雄殿		

熊本縣

宮崎縣

大分縣

三〇、〇〇〇	安部 泰藏殿	三圓宛	高橋榮治殿
			〇岡本鶴記殿
五、〇〇〇	瀨口 金藏殿	一圓宛	三代力馬殿
			〇松本彌三郎殿
			〇後藤久元殿
			〇吉田雅雄殿
			〇中野磯吉殿
			〇安東實殿
二〇、〇〇〇	松元 萬藏殿	壹圓宛	吉川平治殿
			〇荒木秋由殿
			〇犬馬場優殿
			〇木積益要殿
			〇昇英信殿
一〇〇、〇〇〇	猪野利 猛殿	五、〇〇〇	渡邊銳次郎殿
五、〇〇〇	長野 正文殿	五、〇〇〇	岩見 貞藏殿
二圓宛	小泉貞治殿		〇本間富藏殿
			〇田口龜逸殿
			〇田中虎之助殿
			〇川原直常殿
			〇金野慶吉殿
			〇小山鶴吉殿
			〇鈴木慶三郎殿
			〇仲野勘一殿
一圓五十錢宛	宮川四郎松殿		〇坂井宏殿
			〇橋本正次殿
			〇作田外次郎殿
一圓宛	宮崎岩太郎殿		〇淺野重丸殿
			〇竹内敬

北海道

殿○井出柳三殿○本間仁作殿○高野
權三郎殿○前田松一郎殿○藤井謹一
殿○松田清殿○佐藤末太郎殿○髮林
政一殿○新行サカイ殿○板部要作殿
○小笠原豊三殿○佐藤林松殿○深山
八太郎殿○伊藤清殿○工藤芳藏殿○
上野政美殿○永田さや殿

種本幸夫殿○中達一德殿○本保一長
殿○後藤一郎殿○宮口助松殿○上田
宇吉殿○池田喜一殿○佐藤友太郎殿
中屋安子殿○本間つねよ殿○蒲池實
殿

樺太

一圓宛
松山長太郎殿○猪口行雄殿○河端芳
松殿

臺灣

一〇〇、〇〇〇 石神 壽雄殿
五〇、〇〇〇 片山 昂殿
二圓宛
三好榮吉殿○上田喜太郎殿

一、五〇 千葉 清吉殿
一圓宛
渡邊 治殿○松吉松二殿○手塚靜晴
殿○松井喜美殿○田中久吉殿

朝鮮

五〇 黃阿 炳殿
五〇〇、〇〇〇 小林儀三郎殿

三〇〇、〇〇〇 西田常三郎殿
一五〇、〇〇〇 川澤清太郎殿
一〇〇、〇〇〇 廣瀨 信夫殿
一〇〇、〇〇〇 廣瀨 博殿
五〇、〇〇〇 西村孝一郎殿
三〇、〇〇〇 伊藤 恒三殿
三〇、〇〇〇 村田 健次殿
二〇、〇〇〇 林 勝人殿
一〇、〇〇〇 西卜 三殿

二圓宛
岩本岩太郎殿○小林四郎殿
一、五〇 向井 仁助殿
一圓宛
上杉さよ殿○小笠原朔二殿○野口幸
藏殿○金永 哲殿○金嶺壽殿○若林
喜一郎殿○金 仁培殿○廣田伊佐雄
殿○杉崎丈殿○鄭在 鳳殿○朱 載
仁殿○白田捨吉殿

六拾五錢宛
本多多喜壽殿○上田ツネ子殿
五拾錢宛
金 寬浩殿○鄭 永等殿○忠本勝一
殿○金 禹鐘殿

滿洲

六〇、〇〇〇 黑住 恒太殿
一〇、〇〇〇 加島膳一郎殿
一〇、〇〇〇 田村 忠一殿
一〇、〇〇〇 金澤 達殿
一〇、〇〇〇 山本太三郎殿
一〇、〇〇〇 酒井 恭次殿
一〇、〇〇〇 乃美熊太郎殿
五、〇〇〇 向島 文雄殿

海外

五、〇〇〇 峯松 七郎殿
二、〇〇〇 草野 義德殿
二、〇〇〇 清水岩次郎殿
清水 巖殿
清水 重信殿

支那

二〇〇、〇〇〇 船津辰一郎殿
一〇〇、〇〇〇 横竹平太郎殿
一〇〇、〇〇〇 須藤五百三殿
一〇〇、〇〇〇 中島 三郎殿
一〇〇、〇〇〇 田中 淳一殿
五〇、〇〇〇 池田 順一殿
五〇、〇〇〇 高木 謙吉殿
五〇、〇〇〇 中村彌次郎殿
五〇、〇〇〇 井上 豪介殿
三〇、〇〇〇 井上 芳雄殿
二〇、〇〇〇 小島 英之殿
二〇、〇〇〇 鹽川清兵衛殿
二〇、〇〇〇 藤原 誠一殿
二〇、〇〇〇 中川 豐殿
一五、〇〇〇 天谷 八郎殿
一〇、〇〇〇 田中清一郎殿
一〇、〇〇〇 竹内九一郎殿
一〇、〇〇〇 世登 幾平殿
五、〇〇〇 藤井 又一殿

大正十一年十月十日印刷
大正十一年十月十日發行
東京市牛込區白銀町二十九番地
三十五號

編輯兼發行人 前田 多藏
東京市牛込區櫻町七番地
印刷者 渡邊八太郎
東京市牛込區櫻町七番地
印刷所 日清印刷株式會社
府下豐多摩郡月野町字下月塚六
百四十七番地
發行所 早稻田大學 校友會

新時代に活躍の基礎を造る獨學機關は是れ

早稻田大學講義錄

經營十三有餘年講義錄界の權威

政治經濟科	法律科	中文學科	中學科	商業科	高等女學科
-------	-----	------	-----	-----	-------

了修半年第一號 行發日一月十	了修半年第一號 行發日十月十	了修年ケ二號 行發日一月十	了修半年第一號 行發日八月十	了修半年第一號 行發日七月十	了修半年第一號 行發日六月十
-------------------	-------------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------

葉書にて申込次第直ちに各科見本附規則書送呈す

電話 三三三
番町 四三二
四七二
五九四

早稻田大學出版部

東京 早稻田
牛橋

最

新

刊

理學博士 水野敏之丞著

相對原律

菊判洋裝
全一册

紙數三百四十餘頁
圖版四十餘種
定價五圓五十錢
送料十八錢

本書ハ「アインスタイン」ノ相對原律ヲ徹底的ニ説述シタルモノニシテ、テ斯道ニ關スル歐米既刊ノ書中恐ラク未ダ此ノ如キモノナカラシ。

節次

- 1、絕對運動
 - 2、光ノ行差
 - 3、(マイケルソン)及(モーレー)ノ實驗
 - 4、空間ノ幾何學の相對觀念
 - 5、運動ノ相對的觀念
 - 6、時及長サノ相對的觀念
 - 7、光ノ速度ノ不易
 - 8、相對原律ノ第一前提
 - 9、靜止系ト運動系ニ於ケル時及空間坐標ノ相互關係
 - 10、(ローレンツ)及(アインシュタイン)ノ轉換ト直角坐標軸ノ虛角の廻轉
 - 11、靜止系ト運動系ニ於ケル長サ及時ノ單位
 - 12、同時ノ觀念
 - 13、相對原律上ヨリ觀タル(マイケルソン)及(モーレー)ノ實驗
 - 14、靜止系ヨリ觀タル運動系ニ於ケル現象
 - 15、基礎的電磁方程式
 - 16、運動系ニ於ケル光ノ強度
 - 17、運動系ニ於ケル光ノ(エネルギー)
 - 18、(ドップレル)ノ原律
 - 19、速度ノ合成
 - 20、時ノ逆返
 - 21、超光速速度
 - 22、運動ニ伴フ質量ノ變化
 - 23、運動(エネルギー)
 - 24、(エネルギー)ノ變化ト質量ノ變化
 - 25、原子及原子量
 - 26、荷電質點ノ運動
 - 27、四次元體
 - 28、四次元世界
 - 29、世界點及世界線
 - 30、(ローレンツ)及(アインシュタイン)ノ轉換ニ關スル(ミンコウスキー)ノ幾何學的解釋
 - 31、運動ニ起因スル長サノ短縮
 - 32、四次元世界ノ截斷面及四次元世界
 - 33、四次元世界ニ於ケル事件ノ間隔
 - 34、固有時
 - 35、運動方程式
 - 36、一定の力ノ作用下ニ運動スル質點ノ世界線
 - 37、地球引力ノ作用下ニ自由ニ落下スル物體
 - 38、太陽ヨリ發スル光ノ(スペクトル)線
 - 39、等當原律
 - 40、重力場ヲ通過スル光ノ彎曲
 - 41、重力場ニ位スル時計
 - 42、往返スル時計
 - 43、重力場ニ於ケル(エネルギー)
 - 44、萬有引力
- 總論

丸善株式會社

(東京五番)

名譽編輯 橋本 善丸
古名編輯 橋本 善丸
屋名編輯 橋本 善丸
榮名編輯 橋本 善丸
町名編輯 橋本 善丸

東京 神田區 丸善
大阪 東區 丸善
京都 三條區 丸善

背の高く見ゆる

米國シカゴ ストン式洋服と

羅紗地の販賣

大正十一年(毎月一四日發行)



羅沙地の暴落

直輸入品を直接お買上げになれば拾圓乃至拾五圓の節約となります

オーバ地一着分 9,60 錢以上

トンビ地一着分 12,80 錢以上

背廣地一着分 12,00 錢以上

制服地一着分 10,00 錢以上

マント地一着分 11,00 錢以上

裁縫料及裏地及附屬品一切

にて

オ バ 24,00 錢以上

ト ビ 24,00 錢以上

背 廣 28,00 錢以上

制 服 大 人 用 20,00 錢以上

マ ン ト 10,00 錢以上

市内は御来店下されば御選
定御自由地方は(十錢切手)
添御一報次第見本及寸法用
紙御發送致します。

東京牛込區鶴巻町電停前

ストーン商會 羅紗部 洋服部

電話番町一九八〇 振替東京三三五八三